

ひとりごとダイアリー・アーカイブス
方言・米沢弁・米沢でしゃべらっちえきた言葉集
《さ〜と》
おきたまのラジオマン編

〈はじめに〉

本米沢弁リストは、おきたまラジオNPOセンターのホームページに掲載されている“ひとりごとダイアリー”（執筆：おきたまのラジオマン）で取り上げた米沢弁や米沢でしゃべらっちえきた言葉を一覧にしたものです。（この連載は、2008年4月から始まりました）

米沢弁と言っても地域によって違います。そこで、“ひとりごとダイアリー”では、おきたまのラジオマンが聴いたり、しゃべってきたもの、あるいは知っている言葉のみを取り上げております。

なお、あとで加筆したものもあります。

●ざいご・・・「田舎」という意味です。「ざい」と略して言う人もいます。

ただし、単純に「田舎」というニュアンスもあれば、「見下す」「バカにする」というニュアンスの場合もあり、けっして良い言葉とは言えない時もあります。例えば、「おまえ、ざいごから来たんべ」というセリフの裏には、「おまえ、生意気だ」とか「おまえは、なんにもしゃねべ」（おまえは、何も知らないでしょ）という意味を含むことがあります。

方言にも、表と裏があります。

●さえず・・・例題です。「さえず、おれんなだ」。これは「それは、私のものです」という意味です。

「それは」が「そいず」になまり、さらに「そえず」→「さえず」となまっていった言葉です。つまり、相当になまった言葉と言えます。私もそんなに聞いた言葉ではありませんし、私自身が使った記憶はありません。それでも、どこかで聞いた記憶はありますので、取り上げました。

●さぎっちょ・・・例題です。「おれの箸、さぎっちょ、かけだず」。これは「私の箸、先端が欠けたよ」という意味です。

「さぎっちょ」は「さぎっぽ」がさらになまった言葉で「先端」の意味です。

「さぎっちょ」は全国で広く言われていると思ったのですが、調べますと、意外にそうではないようなので、取り上げました。

●ざげる・・・大雪が降りますと、道路にも雪が積もります。その上を車が通りますと、雪は踏み固まります。これが圧雪状態です。圧雪状態はスリップしやすいので、運転には細心の注意が必要です。ただ、凹凸や轍（わだち）がなければ、まだ走行しやすい方です。

気温が上昇します。雪が融けてきます。すると、踏み固まっていた雪がゆるみ、シャーベット状態になります。このシャーベット状の雪がグチャグチャとたくさん積もっていたところに車が

やってきますと、ハンドルは雪にとられて、真っ直ぐ進むことができなかつたり、前後左右に大きく振られます。動けなくなることもさへあります。

このように、雪が融けてグチャグチャ状態なることを「ざげる」と言います。

- さすけね・・・「差（さ）し支（つか）えない」「構（かま）わない」「大丈夫」という意味です。例題です。「こいつ、おれづくった高菜漬けだけんど、ちょっとしょっぱくなってよ〜」「そがなごど、さすけね」。これは「これ、私が作った高菜（青菜）漬けですが、少し塩辛くなってしまうよ〜」「そんなこと、さしつかえない」という意味になります。「さすけね」は「さしつかえない」が訛った言葉なのでしょうか。「さすけね」は「その程度なら許容範囲」という意思を表す言葉です。

- さだす・・・例題です。おばあちゃんとおぼご（おばあちゃんにとっては孫です）が歩いています。おぼごが、ソワソワし始めます。手はお〇ン〇ンをおさえています。そこでおばあちゃんが言います。「おしっこ、むぐしそうなのが。ほんじゃば、そごらへんでいいがら、はやぐさだせ」。これは「おしっこ、出そうなのか（漏れそうなのか）。それでは、そのあたりで良いから、早くおしっこしなさい」という意味です。

お食事の方には申し訳ありませんが、大きな方をする時も「さだす」と言うそうですが、私の場合「さだす」はおしっこをイメージします。

- さっきな・・・例題です。「あいつ、どさいったんだべ」「さっきなまで、こさ、いだず」。これは「あいつ、どこへ行ったのだ」「先程まで、ここにいましたよ」という意味です。前者のセリフには「ここにいろ」と言ったのに「いなくなった」という意味が含まれています。一方、後者のセリフには「あなたがここになかなか来ないからだよ」という意味が含まれています。

「さっきな」は「先程」「さっき」という意味です。

「さっき」で通じるのに、どうして「な」が付いたのかは、私もわかりません。「な」が付く言葉には、「昨日」を意味する「きんな」があります。私自身、「さっきな」や「きんな」を使った記憶はありませんが、よく聴いた言葉でありますので、取り上げました。

- ざっこ・・・「魚」のことですが、どちらかと言うと、川魚を指します。「ざっことりさいぐべ」は「（川に）魚を捕りに行こう」という意味です。米沢は海が遠いです。ですから、「魚を捕る」と言っても、必然的に川魚になるわけです。川魚には大きな魚はいませんので、「ざっこ」を「小魚」と説明しているものもあります。

逆に言いますと、マグロのような大型の魚を「ざっこ」とは言いません。ただ、サンマを「ざっこ」と言ったかは、私も記憶が曖昧になっています。サンマは「サンマ」かな！

- さっちえも・・・例題です。「そがなごどさっちえも、こまんず」。これは「そんなことをされても、（私は）困ります」という意味です。

「さっちえも」は「されても」という意味です。

例題は、AさんはBさんから金品を贈られました。しかし、Aさんとしては、Bさんから金品

を贈られる理由がありません。Bさんは困惑しました。そこでBさんがAさんに言ったセリフは「そがなごどさっちえも、こまんず」です。

もうひとつ例題です。「そがなごどさっちえも、さんにず」。これは「そんなことをされても、(私は) できません」という意味です。

●さっच्या・・・例題です。小さな子どもが自分で服を着ています。最後はボタン通しです。できるかな・・・。子どもはちゃんとボタンを通すことができました。そこで子どもが言ったセリフは「さっच्या!」。これは「できた!」という意味です。

「さっच्या!」は子どもが言うケースが多いです。子どもは成長と共に、できることが多くなります。そのたびに「さっच्या」です。

ほかにも、「勉強、さっच्या」などと言うこともあります。

●さっच्याが・・・小さな男の子が初めてトイレで用を済ませる、という場面です。おかさんは「おしっこ、さっच्याが」と言います。しばらくして、子どもから「さっच्या」という返事です。これは「ひとりで、おしっこ、できたか?」「できた!」という意味です。

「さっच्याが?」は「できたか?」「できましたが?」という意味です。

例題です。「東京さ行ってきたんだべ。いろいろ、さっच्याが?」。これは「東京に行ってきたのでしょうか。(いろいろな用事(目的)があって行ってきたそうですが)、することができましたか?(してきましたか?)(できましたか?)」という意味です。

それに対する答えの例です。「電車がわがんねがったもんで、あんまり、さんにがった」は「電車の乗り方がわからなかったので、思うようにできなかつた」という意味です。

もうひとつ例題です。「勉強、さっच्याが?」。これは「勉強をすることができましたか?」という意味ですが、単に「勉強をする」という行為の「できたか?」という意味だけでなく、「勉強は進んだか?」「勉強して頭に入ったか?」という意味まで含まれることがあります。

●さつつうど・・・例題です。「あいづは、さつつうど、こねもんな」。これは「あいつ(あの人は、肝心な時に、来ないよね)」という意味です。世の中には、普段言いたいことばかり言うのに、肝心な時に来ない人がいます。例えば、イベントを開催することになりました。そこで、実行委員会を結成します。そして、みんなで企画を考え、計画を立てます。ところが、みんなが合意したことに、一人だけが「ああでもない、こうでもない」と文句ばかり言ってひっくり返します。でも、そういう人に限って、準備作業はおろか、肝心の当日も顔を出しません。こんな時に出てくるセリフが「あいづは、さつつうど、こねもんな」です。

「さつつうど」は「肝心な時に」「肝心な状況になったのに」「大事な時に」「大事な状況になったのに」「いざという場合なのに」という意味です。

もうひとつ例題です。「Aは、さつつうど、文句ゆうもんな」。みんなで話し合っています。Aさんもはじめはみんなと同じように話し合います。ところが途中で必ず文句を言い始めます。それは、Aさんのわがままからです。それで「Aは、さつつうど、文句ゆうもんな」というセリフが出るのです。

この場合の「さつつうど」を訳すのは難しいです。「いやになって」「我慢しきれなくなって」

「耐えられなくなって」「面倒臭くなって」というようなニュアンスでしょうか。この例題では、話し合いで物事を決めようとしていたのですが、自分の思い通りにならないと気が済まないAさんは途中で「文句を言う」という手段に出してしまうのです。

●さなんね・しなんね・すなんね・・・例題です。「雪下ろし、さなんね（しなんね・すなんね）」。
これは「雪下ろし、しなければならぬ」という意味です。

「さなんね」「しなんね」「すなんね」は「しなければならぬ」「しなければいけない」「やらなければならぬ」「やらなければいけない」という意味です。

「雪下ろし、さなんねず（しなんねず・すなんねず）」は、自分に向かって「雪下ろし、しなければならぬな～」と言い聞かせているニュアンス、あるいは「雪下ろし、しなさいよ」という促すニュアンスで言われるセリフです。

「雪下ろし、さなんねべ（しなんねべ・すなんねべ）」は「雪下ろし、しなければならぬよね（した方が良いでしょう）」という意味です。

「さんなんね」「さんなね」「しんなんね」「しんなね」「すんなんね」「すんなね」と言う人もいて、同じ米沢でも言い方は微妙に違います。

「宿題、さなんねぞ（しなんねぞ・すなんねぞ）」は、親が子どもへ「宿題、しなければならぬぞ」つまり「宿題、しなさい」という意味です。

●される・・・「やらされる」というような受け身的に感じられるかもしれませんが、米沢弁では逆で、「できる」という意味になります。「おれ、される」とは「私、できます」という意味です。さらに、「おれ、そげ（が）なごどされる」とは「私は、そんなことくらいはできます」という主張の意味合いになります。

「される」から少し展開してみましよう。

●されんず・・・「できます」の意味ですが、「できるよ！」という主張のニュアンスが強いです。

●されっぺ・・・直接的には「できるでしょう」という意味ですが、そこには「しなさい」「やりなさい」という指示・命令の意味合いも含まれます。

●されっか・・・「できますか」と、できるのかを尋ねる時に言います。

●さわす・・・渋柿の渋を抜くことを「さわす」と言います。

「さわす」をここで取り上げるか迷いました。なぜなら、辞書にも「さわす」があるからです。辞書によると漢字では「酩す」と書くそうです。つまり、方言ではないのです。

それでは「さわす」と言って通じるのでしょうか。東京・杉並では「通じない人が意外にいる」と実感したため、ここで取り上げることにしたのです。

通じない背景は、少なくとも2つあります。1つは「渋柿の渋を抜く」こと自体知らないためです。もうひとつは「渋柿の渋を抜く」ことが不要だからです。山梨県では渋を抜かなくても良い甘い柿が実るそうです。

すなわち、「さわす」は、方言ではないものの、全国共通の言葉ではないのです。

ちなみに、福島県会津坂下町の人には「さわす」が通じました。一方で「さわす」を庄内地方の方言（庄内弁）として紹介しているものもあります。さらに、仙台弁とか、新潟県田上町の方言

として紹介しているものもあります。

こんなことを書いていたら、さわしたあま〜い柿が食べたくなくなってきました・・・。

●さんに・・・例題です。「あしたまで宿題されっか?」「さんに」。これは「明日まで宿題（を終わらせることが）できるか?」「できない」という意味です。

「さんに」は「できない」「できません」という意味です。

私なども「できない」と思うと、あっさり「さんに」と言ってしまうことがあります。このように、「さんに」には、深く考えもしないで「できない」と言ってしまうというニュアンスもあります。

「されっか?」「さんに」は、米沢弁を代表するやり取りのひとつです。

「さんに」は、だいたいは、ある期限までに終わらせることができない場合に使われることが多いです。

でも、宿題の問題が難しすぎて「できない」という意味の「さんに」もあります。こういう場合には「こがな面倒臭い宿題、さんにず〜」と言います。

●ざんま・・・例題です。子どもが留守番をしています。おかあさんが帰ってきました。そして、家の中を見て言ったセリフは「なんだ、このざんまは!」。家の中があまりに散らかっていたので、おかあさんは怒って言ったのです。

「ざんま」とは「ざま（様・態）」が訛った言い方です。「ざま（様・態）」を強調するために訛ったとも考えられる言い方です。「ざま（様・態）」は「さま」が音変化した言葉であり、「さま」を強調するために音変化したと考えることができますので、「ざんま」は強調の二乗と言えるかもしれせん。

「ざんま」とは「状態」「様子」「有り様」「形振り（なりふり）」「仕業」などに対する言葉です。それも、「良い・・・」に対しては言いません。ほめる時も言いません。

例題のように、叱ったり、嘆いたり、あざけったりした時に発するセリフです。

例えば、その場に合わない服装をしていきますと、「なんだ、このざんまは!」と言われてしまいます。また、浪費ばかりしている人にも、生活態度・生活状態に対して「このざんまは、なんだ!」と言います。

おとうさんがチョー酔っぱらって帰ってきました。泥酔です。翌朝です。おとうさん、おぼえていません。そこで、おかあさんの冷たいひと言です。「ゆんべのざんま、おぼえったが!!」。気を付けましょう。

春になって、そろそろ農作業を始めたいのですが、田んぼには大量の雪が残っています。そこで言うセリフは「このざんまだもな〜」。あまりに雪が多い状態（状況・様子）に対して、嘆いて言ったセリフです。

●しこだま・・・例題です。「ワラビ、けっから」「しこだまあんな（あっこど）。おしょうし」。これは「(山菜の)ワラビ、あげるよ(くれるよ)」「たくさん(いっぱい)ありますね。ありがとう」という意味です。

「しこだま」とは「たくさん」とか「いっぱい」というように「数や量が多い」ことを表す言

葉です。

会社です。夕方になりました。「しこだま仕事残ってだじゃ〜。残業しなんね」。これは「まだたくさん仕事が残っているよ。残業をしなければならない」という意味です。

お店です。開店前です。大勢の人が列を作って開店を待っています。それを見て言うセリフは「しこだまいだずな〜」（たくさん（の人が）いるな〜）。

このように、目には見えない仕事の量や、人の数に対しても使う言葉です。

ニュアンスとしては、単に「数や量が多い」というより、「多い」ことへの驚き、喜び、嘆きといった感情を伴った言葉という感じです。

●じっこ・・・これは「小便」のことです。いわゆる「おしっこ」からなまった言い方です。「じっこ、でる!」「じっこ、しろ」「じっこ、でねなが」などと言います。

●じっちゃ・・・「おじいちゃん」という意味です。今さら説明するまでもない言葉ですが、標準語ではなく、辞書にも説明がありません。いわゆる俗語なのでしょうが、ここでは「米沢でもしやべらっちえきた言葉」として取り上げました。

「おじいちゃん」と言われる年齢に達していなくても、身体の衰えを感じますと、「じっちゃんになっただずな〜」と言われてしまいます。さらに、若い人より年齢が高いだけで「じっちゃ」と言われます。もちろんこれは、ふざけての言い方、親しみを込めての言い方であります。

●〜してけっか・・・例題です。「おつかい、してけっか」。これは「買い物、してくれるか」という意味です。

「〜してけっか」は「〜してくれるか」「〜してもらえますか」という意味です。

「〜してけっか」「〜してけんにが」は優しい頼み方です。それが「〜してけろず」「〜してけろ」「〜しろず」となりますと、強い頼み方、指示・命令というニュアンスになります。

●してけろ・・・例題です。「パソコン、うごがねぐなっただず〜。直してけろ」。これは「(自分の)パソコンが作動しなくなりました。直してください」という意味です。

「してけろ」は「してください」「して頂戴」という意味です。自分ができず（この「できず」には、能力がなくて「できない」場合、忙しくて「できない」場合などがあります）、人に頼む時に「してけろ」と言います。ただ、いくら方言でも、「してけろ」は、親しい人や気の知れた人には言いますが、上司や目上の人には言いにくい表現です。もちろん、だいたいの子どもは、誰にでも言うでしょう。

●してけんにが・・・例題です。「パソコン、うごがねぐなっただず〜。直してけんにが」。これは「(自分の)パソコンが作動しなくなりました。直してくれませんか」という意味です。

「してけんにが」は「してくれませんか」「してくださいませんか」という意味です。「してけろ」がストレートに「してください」「して頂戴」と言う意味に対して、「してへんにが」は奥ゆかしい言い方で、「してくれませんか」と相手の気持ちを尋ねる言い方で「してほしい」という意思を表しています。

ただ、いくら方言でも、「してけんが」は、ある程度の親しい人や気の知れた人には言うことができますが、上司や目上の人には「してけんが」でも言いにくい表現です。

●してんな・・・例題です。「ゲームばかり、してんな」。これは、いつまでもゲームで遊んでいる子どもに「ゲームばかり、しているな」という意味で言っているセリフです。

「してんな」は「しているな」つまり「やめなさい」という意味です。

「酒飲みばかり、してんな」とは、「酒飲みばかり、しているな」という意味です。これは変形して「酒ばかり、飲んでんな」という言い方もします。

●しなこい・・・本当はパリパリしている食べ物（せんべいなど）を食べた時、歯切れが悪い、フニャフニャしている、湿気っている状態を言います。スルメを食べる時、歯ではなかなかちぎれません。こんなイメージが「しなこい」です。

●しね・・・例題です。「明日、野球しんべ」「しね」。これは「明日、野球しよう（野球やろう）」「しない」という意味です。

「しね」とは「しない」「やらない」「しません」「やりません」という意味です。

いろいろな例題が考えられます。「酒飲み、すんべ」「しね」。「手伝いしろず」「しね」。「勉強しろ」「しね」。

このように、同僚や友人の誘いを断る時の「しね」もあれば、親の指示に子どもが「しね」というケースなどが考えられます。

●しねでけろ・・・「しないでください」「やらないでください」「しないでくれ」「やらないでくれ」「するな」「やるな」という意味です。

単に「するな」「やるな」という意味なら「しんな」「すんな」と言います。対して「しねでけろ」は、まさにこれからあることをしようとしている人に対して、あるいはあることをしようと思決定した人に対して、「やめてください」「やめてくれ」「やめてちょうだい」という意味を込めて言うセリフです。「余計なことをしないでください」という意味でもあります。

例題です。おじいちゃんの家に行きます。その時のセリフです。「雪かき、してけっから」「しねでけろ」。おじいちゃん、一人で雪かきは大変だと思い「雪かき、してあげるから」と言ったのに、おじいちゃんは「オレは自分一人で出来るんだぞ」という意思から「しないでくれ」と言いました。

●しぴたれ・・・「気が小さい」「クヨクヨしやすい性格」「小さなことにこだわる性格」「メソメソしやすい性格」「いくじなし」というような意味で「けち」「けちんぼ」「みみっちい」という意味でもあります。主に男性に対して言う言葉で、「しぴたれ野郎」と言うこともあります。「しみったれ」が訛った言葉とも考えられます。

例題です。「酒飲むべ」「なんにもないとき、のんでらんべ～」「しぴたれだずな～」。これは「（これから）お酒飲もうよ」と誘ったのに「何も（飲むための）理由がない時に、飲んでいられません」という返事だったので「しぴたれだずな～」と言ったのです。

例題です。「元気ね～ずな」「おらあ、仕事しくじったでら・・・」「あいづが。もう1週間前だべした。しぴたれだずな～（いづまでも、しぴたれでんなず)」。これは「元気ないね」「私、1週間前に、仕事で失敗したので・・・」「あのことか。もう1週間前のことだよ。気が小さいんだね。いつまでもクヨクヨしないで・・・」という意味です。

例題です。「昼飯（ひるめし）おごれ」「やんだ」「しぴたれ野郎」。これは訳さないでも、わかりになるでしょう。

●しゃあましする・・・これは、米沢・置賜地方だけでなく、村山地方などでも言うようですが、私にも染みついていますので、ご紹介します。例題です。「あのじっちゃ、オレのいうごどきかなくて、しゃあましする」。これは「あのおじいちゃん、私の言うことを聞かないので、手に負えない」という意味です。

「しゃあましする」は「手に負えない」「もてあます」というような意味です。例題では、直接的には「言うことを聞かない」ので「しゃあましする」と言っていますが、ここには単に「言うことを聞かない」というだけでなく、「周りの人への迷惑を考えないほどの頑固」とか「世間の常識を知らないほどの頑固」あるいは「自分勝手なことをする」という意味合いまで含まれることが多いです。

少々の頑固ですと、笑って済ますこともできますが・・・。

私も「しゃあましするヤツだ」と言われたいよう注意します。

●しゃいこね・・・例題です。「いいがら、ひとりでさせろ。しゃいこね～ごど、してんなず」。これは「いいから、ひとりでやらせなさい。余計なこと、するな」という意味です。

もうひとつ例題です。「(あいづさ)しゃいこね～ごど、いうなず」。これは「あの人に、余計なことは言わないで」という意味です。これは、「あの人に余計な心配をさせないこと」という場合もあれば、「あの人に関わってもらいと困るので、余計なことは言わないで」という場合もあります。

「しゃいこね」は、「余計なこと」とか「おせっかい」という意味です。元々は「しゃいこ」という言葉のようですが、「余計なこと、するな」というように、叱る時や指示・命令する時に使うことから、後ろに「ね」を付けて「しゃいこね」になったと思われます。「しゃえこ」と説明しているものもありますが、私は「しゃいこね」と言います。

●しゃじ・・・「さじ」がなまった言い方で「スプーン」のことです。

私が子どもの頃は「スプーン」というより「しゃじ」と言ったものです。例えば、箸で食べにくい時は「しゃじでくうが」とか「しゃじ使うが」と言われたものです。しかし、今では「しゃじ」と言う人は少なく、「スプーン」が一般的です。

●しゃっぱぐれる・・・これは、本当は知っていても「知らないふりをする」という意味です。または、自分がやったのに、あるいは自分がかかわっているのに、「やっていないふり」「かかわっていないふり」をすることも「しゃっぱぐれる」と言います。

例えば、「誰だ、私のケーキ食べたの？」に対して、本当は食べたのに、食べないふりをするこ

とも「しゃっぱぐれる」です。

「しらば(っ)くれる」に当たる言葉ですが、「やっていないふり」「かかわっていないふり」ことも「しゃっぱぐれる」と言うのとは微妙に違います。

「しゃっぱぐれる」を米沢弁で説明すると、「しゃねふりする」です。

●しゃで・・・「弟」です。ただ、最近では聴かなくなりました。その昔、私が子どもの頃でも、子ども同士では言わなかったと思います。私のイメージは「おじさんたちが使う言葉」という感じ
です。

例題です。「お前のしゃで、何した」。この「何した」は、「今、何をしているの？」から「どんな仕事をしているのか？」「どこに勤めているの？」という意味まで、その時の状況で、いろいろな意味になります。

この「お前のしゃで、何した」を私が子どもの頃、子ども同士で言った記憶がありません。もともと私に弟がいなかった、ということもありますので、アテにはなりません。

私としては、あまり好きな言葉ではありません。なんとなく、他人の弟さんを見下すような言い方に感じるからです。少なくとも、親しい間柄で使う言葉で、上司や目上の人に「あなたのしゃでは、どうなされましたか」などとは言いません。コケるだけです。

●じゃなる・・・例題です。遊園地です。お子さんとおかあさんが遊んでいます。夕方になりました。おかあさんとお子さんのやり取りです。

「そろそろ帰んべ」

「やんだ。まだ遊ぶ」

「だんだん暗くなんず。帰んなんね」

「やんだ！やんだ！」(と大きな声を出し始めます)

「しょうしいがら、じゃみでんなず！」

これは

「そろそろ帰ろう」

「いやだ。まだ遊ぶ」

「だんだん暗くなるよ。帰らなければならないよ」

「いやだ！いやだ！」

「恥ずかしいから、大きな声出さないで！」という意味です。

このように「じゃなる」は、大きな声で「わめく」という意味です。特に子どもが自分の思い通りにいかないと「じゃなる」ことになります。

●しゃね・・・「知らない」という意味です。

例題です。「そがなごと、おれ、しゃね」とは「そんなこと、私は知らない」という意味です。知らないことを強調する時には「しゃねず」と言います。

単に「知らない」という意味だけでなく、そのことに「関わっていない」という意味を含む場合もあります。

●しゃねべ・・・例題です。今夜は楽しみにしていた飲み会があります。ところが用事ができてしまい、参加できなくなります。そこで「酒飲みさ、いがんにくなった」（飲み会へ行くことができなくなった）となります。それに対して、「しゃねべ」と言います。

「しゃねべ」とは「仕方ない」とか「しょうがない」という意味です。

「しゃねな」「しゃねずな」も同じ意味ですが、部下から「明日休ませてください」と言われて、上司が「しゃねな」と言うことがあります。これは、「イヤイヤながらも承諾する」という意味も含みます。

●シャベロ・・・「スコップ」のことです。豪雪地帯である米沢では、シャベロは冬の雪かき道具のひとつとして欠かせません。私が子どもの頃はみんな「シャベロ」と言いました。だから「スコップ」とは、あとから知った言葉です。でも今は逆に「シャベロ」という言葉をほとんど聞きません。

●じゃみらっちゃ・・・例題です。「客がら、じゃみらっちゃ」。これは「客から、文句を言われた」という意味です。

「じゃみらっちゃ」は「文句を言われた」「小言を言われた」という意味です。

もうひとつ例題です。「先生、A君からじゃみらっちゃもんだがら、先生におごらっちゃ」。これは、自分がA君にしたことについて、A君が先生に告げ口したため、先生から叱られた、という意味です。

「じゃみらっちゃ」には「告げ口された」「言いふらされた」という意味もあります。

いずれの例も「なぜ文句を言われるのか？」「なぜ告げ口されたのか？」「なぜ言いふらされたのか？」という思いがあります。

●じゃみる・・・例題です。「おぼご、じゃみるぞ〜！」。これは「子どもが泣き叫んでいるよ」という意味です。

「じゃみる」は、子どもが「泣き叫ぶ」「泣きわめく」という意味の言葉です。たまに、大人が「じゃみている」こともあります。

進級・新入学・入園などで、慣れないために「じゃみる」お子さんが多くなるかもしれません。

ちなみに「じゃみる」は、関東ですとインクなどが「にじむ」ことを指し、岩手あたりですと「うらやましい」という意味になるそうです。また、辞書では「途中でだめになること」と説明しています。

●しゃれこ・・・例題です。「オッと、きょうはしゃれこ、しったずな〜」。これは「オッと、きょうはおしゃれな格好していますね」という意味です。この「おしゃれな格好」とは、服装・身だしなみ・ヘアスタイルなどいろいろ考えられます。正装している場合も言うことがあります。「よそ行きの格好」とも言えます。また、この例は、普段と違って、きょうは「しゃれこ」にしているケースです。

もうひとつ例題です。「あいづ、しゃれこだずな」。これは、常におしゃれな格好をしている人に対してのセリフです。

●しょう・・・例題です。「おぼご、しょうがら」。これはおかあさん（娘さん）とおばあちゃん（娘さんのおかあさん）の会話です。おかあさんは赤ちゃんを抱っこしています。それを大変そうに見たおばあちゃんが言ったセリフが「おぼご、しょうがら」です。これは「子ども、私が背負うから（背負うよ）（背負ってあげるから）」という意味です。

「しょう」は「背負う」という意味です。

荷物を背負う時にも「しょう」と言います。よく「はげご、しょう」というセリフを聞いたものです。「はげご」には採った山菜などを入れます。「はげご、しょって、いぐぞ」（はげごを背負って（山に）行くよ）、「さっさど、はげご、しょえ」（早く、はげごを背負え）など、いろんなセリフを聞きました。

ただ、「ランドセル、しょって、学校さ、いげ」とは、あまり聞きません。

●じょうが・・・「じょうが」の「が」は半濁音ではありません。濁音です。

例題です。「じょうがさ、いってくんぞ」。「いってくんぞ」は「行ってくるよ」という意味です。それでは、どこへ行くのでしょうか。

「じょうが」は「じょうか」のなまった言い方です。「じょうか」を漢字で書きますと「城下」です。「城下町」の「城下」です。

「城下」とは、市街地（旧市街地）のことです。元々の「米沢」とは、米沢城周囲の市街地だけ、つまり城下町のところだけを指していました。

私が今住んでいる米沢市笹野は、元々は「笹野村」です。過去に住んでいた米沢市福田町は、今では市街地の一部ですが、位置的には米沢城から見て「東寺町」の外側ですので、「城下」ではありません。その昔は「福田村」でした。

それで、市街地（旧市街地・城下町）の外側、つまり郊外に住んでいる人が市街地（旧市街地）へ出掛ける時に言うセリフが「じょうがさ、いってくんぞ」なのです。すなわち、例題の意味は「市街地に行ってくるよ」です。

ですから、「じょうが」は郊外に住んでいる人だけが使う言葉です。

「じょうがさ、いぐべ」「じょうがさ、いってくんじゃ」というセリフは、今でも聞くことがあります。

「じょうが」と同じ意味で「まちば」という言葉もあります。使い方・意味は「じょうが」と同じです。「まちばさ、いってくんじゃ」「まちばさ、いぐぞ」などと言います。「まちば」も郊外に住んでいる人だけが使う言葉です。

●じょうくじ・じょうぐじ・・・意味は「玄関」です。

例えば、「じょうくじ（じょうぐじ）、しめだが」は「玄関（の鍵）、閉めたか？」という意味です。私の場合は「じょうくじ」という言い方で聞きました。

●しょうしい・・・「恥ずかしい」という意味です。

例題のひとつ目です。「おまえ、そがないだずらしたもんだがら、かあちゃんはしょうしいず〜」。これは、親が子どもに対して言うセリフです。「お前、そんなイタズラをしたので、おかあさんは

恥ずかしいよ」という意味です。

もうひとつ例題です。「そがにほめらっちえ、しょうしいな〜」。これは「そんなにほめられて、(私) 恥ずかしいです」という意味です。

つまり、自分自身のことに対して「恥ずかしい」と思う場合と、自分に関係する人のことによつて「恥ずかしい」と思う場合があります。そのいずれでも、「しょうしい」と言います。

●じょうさない・じょうさね・・・例題です。「そがな、じょうさね〜べ。やってみろ」。これは「それは簡単だろう(難しくないだろう)。やってみなさい」という意味です。つまり、「じょうさない・じょうさね」とは直接的には「簡単」という意味ですが、ニュアンスとしては「難しくない」(難しさの否定)という意味合いが強いです。「難しさの否定」とは、このあと何かがあります。

もうひとつ例題です。「まだ、あつづくなってきたじゃ。じょうさね〜な」。これは「また暑くなってきたね。(1年経つのは) 早いな」という意味です。つまり、この「じょうさない・じょうさね」は「(時間が経つのは) 早い」という意味です。毎日毎日いろんなことがあります。でも時間だけは(アツと言う間に・・・つまり「簡単に」) 過ぎていきます。だから、時間が経つのが早いことを「じょうさない・じょうさね」と言うようになったと思われます。

●しょね、しょねな、しょねごで・・・例題です。自分の子どもが所属する野球チームの試合。しかし、チームは敗れてしまいました。子どもたちはガックリです。そこで言うセリフは「しょね」「しょねな」「しょねごで」です。

「しょね、しょねな、しょねごで」とは「仕方(が) ない(よ)」「しょうがない(よ)」「やむを得ない(よ)」という意味です。例題では、一生懸命になって練習し、試合したけど、敗れてしまった子どもたちを励ますためのセリフです。

すなわち「しょね、しょねな、しょねごで」は、失敗に対して、それは「仕方ない」という場合に使う言葉です。人間は、一生懸命やったのに失敗することもあります。その場合は「しょね、しょねな、しょねごで」であります。

しかし、世の中には「しょね、しょねな、しょねごで」では済まされないことがたくさんあります。福島原発事故も、そのひとつです。

●しょねな〜・しょねずな〜・・・例題です。「あれっぱりもらっても、じょねずな〜」。これは「あれだけいただいても、どうしようもないな〜」「あれだけいただいても、困ってしまうな〜」という意味です。

例えば、ここに子どもが5人います。ある人が子どもたちのために、差し入れとして、ショートケーキを買ってきました。その人には感謝しました。でも、本心は「あれっぱりもらっても、じょねずな〜」。なぜなら、ショートケーキは2個しかなかったからです。この場合の「あれっぱりもらっても、じょねずな〜」は、「あれだけいただいても、どうしようもないな〜」「あれだけいただいても、困ってしまうな〜」という意味です。

「しょねな〜」「しょねずな〜」とは「どうしようもない」「対応できない」「困ってしまう」というような意味です。

お祝いにお酒をもらいました。でも、家では誰もお酒を飲みません。こんな時、顔では「おしよしな」（ありがとう）と言っても、内心はまさしく「しょねずな〜」。お祝いだから、断るわけにもいかないからです。

「こんなことをすれば相手は喜ぶだろう」「こんなことをすれば相手は助かるだろう」という思い込みが、逆に相手を困らせることがあります。特に注意しなければならないのが、ボランティアの押し売りです。

●しょむ・・・例題です。「この玉コン、味がしょんでいて、うまいごど」。これは「この玉コンニャク、味がしみ込んでいて、美味しいです」という意味です。

もうひとつ例題です。子ども、転びます。ヒザをすりむきます。血も出てきました。おかあさん、傷口に赤チン（赤チンキ：懐かしい言葉！。今、赤チンなんて、耳にしませんね）を塗ります。子ども、叫びます。「しょむ〜！！」。

「しょむ」は「しみる」「しみ込む」という意味ですが、味が「しみる」と、傷口に「しみる」の2通りあります。

冷たいアイスクリームを食べます。すると「歯さしょむ〜！！」と良いながら、グッと堪える子どもたち。「歯さしょむ」ようになったら、歯医者さんに行きましょう。

●じよんだ・・・例題です。「この絵、おまえかいだなが。じよんだずな」。これは「この絵、あなたが描いたのですか。上手ですね」という意味です。

例題です。「こいず、うまいごど。じよんだずな」。これは「これ（この料理）、美味しいですね。（料理の作り方）上手ですね」という意味です。

さらに例題です。「この紙飛行機、オレづぐったんだず〜。じよんだべ」。これは「この紙飛行機、私が作りました。上手でしょう？」という意味です。これは（自分としては）上手に作ることができたことを相手に尋ねている・同意を求めているセリフです。

「じよんだ」とは「上手だ」という意味です。何が上手かと言いますと、絵がじよんだ、字がじよんだ（きれいな字を書く）、料理がじよんだ、教え方がじよんだ、工作がじよんだ、歌がじよんだ、英語がじよんだ、芝居がじよんだ、スキーがじよんだ、運転がじよんだ等々、いろいろです。

●しろず・・・例題です。「さっさど、しろず」。これは「早くしなさい」という意味です。

「しろず」は「しなさい」「やりなさい」という意味です。それも、してほしい相手・やってほしい相手が、それをなかなか「しない・やらない」人に言う言葉です。目上の人や上司には使いません。自分の子どもや目下の人・部下などに使う言葉です。

例えば、「掃除しろず」「宿題しろず」と言います。

「しろ」に「ず」が付いただけの言葉ですが、これも方言です。米沢の方言には、このような言葉がたくさんあります。

●しんなびる・・・例題です。「この花、しんなびだ」。これは「この花、しおれた」という意味です。

このように「しんなびる」とは、草花木が「しおれる」ことを意味します。「しんなびる」は「枯れる」とはニュアンスが違います。「しんなびる」は瑞々しさが無い、元気がない、生気がないことを意味します。

「この大根、しんなびだ」「この葉っぱ、しんなびだ」などと言います。「しんなびだ」大根、もちろん美味しくありません。

●ず・・・セリフの末尾・語尾に付く代表的な言葉（方言）のひとつです。いくつか例題をご紹介します。

「はらへったず」は「お腹がすいた」という意味です。「お腹がすいた」ことを明確に意思表示する、強調するための「ず」です。

「おもしろがったず」は「おもしろかった」という意味です。「おもしろかった」ことを伝えたいための「ず」です。

「番組、みでけろず」は「番組を観てください」という意味です。「番組を観てほしい」ことを言いたいための「ず」です。

「ケーキ、買ってきてけろず」は「ケーキ、買ってきて」という意味です。「買ってきて」と頼んでいます、頼む気持ちを強調するための「ず」です。例題は、「頼む」というより「指示」というニュアンスにも聞こえます。

「やんだず」は「いやだ」という意味です。頼まれたり、指示されたことに対して、断ったり、拒否したりする時の「ず」です。「やんだ」だけでも「いやだ」と意思表示できますが、「ず」を付けますと、さらにその意思を強調することになります。

「しゃねず」は「知らない」という意味です。これも「知らない」ことを強調している「ず」です。「知らない」だけでなく「そのことに関わっていない」という意味を含むこともあります。

「ほだず」は「そうだ」という意味です。「ほだ」は「そう」とか「そうです」という意味です。つまり、同意する時に言います。それが「ほだず」となりますと「そうだ」となり、「納得する」という意味合いも含む場合もあります。

「すんなず」は「やめなさい」とか「するな」と言う意味です。例えば、子どもに対して「いたずら、すんなず」と言うのは「いたずら、やめなさい」とか「いらずら、するなよ」という意味です。「すんな」だけでもその意味を持ちますが、「ず」を付けて、明確に伝えています。

このように、だいたいの場合、セリフの最後（末尾）に「ず」または「ず～」と言うことで、自分の意思・気持ちを「明確にする」「強調する」「念押しする」という意味があります。

「ず」が付く言葉については、それぞれの項でもご紹介します。

●すえる・・・例題です。「このまんま、すえだんでねーが。においすんぞ」。これは「このご飯、悪くなったのではないか。臭いするよ」という意味です。

「すえる」は、炊いたご飯（米）が悪くなったことを意味する言葉です。

●すぎない・すぎない・・・例題です。子どもたちのためのイベントを開きます。当日、会場作りをします。思いっきり身体を動かすことができる場を設けました。折り紙などができる場も設けました。昔遊びコーナー、お絵かきコーナーも設けました。紙芝居や読み聞かせもあります。

盛りだくさんになりました。でも、なんだか物足りないです。楽しい雰囲気醸し出す飾り・デコレーションがないことに気付きました。ちょっとお休みする場もないことに気付きました。そこで言うセリフが「すぎ（げ）ないな〜」です。

「すぎない」「すぎない」とは「なんか物足りない」「何が足りないようだ」「ちょっと満足できない」というような意味です。だいたい、例題のように、物理的に「物足りない」時に言う言葉ですが、絵などのようなアート作品、論文のような執筆物などでも言うことがあります。例えば、絵画で、もう少し筆を加えた方が良くと思うと、「このあたり、すぎ（げ）ないから・・・」と言います。

さらに、食事で「もう少し食べたい」と思った時にも「ちょっとすぎ（げ）ないな〜」と言うこともあります。

標準語の「すぎない」（素気無い）の「愛想がない」「思いやりがない」「そっけない」とは意味が違います。

●ずぐだれ・・・例題です。「あいつは、なんにもしねぐで、ずぐだれだずな〜」。これは「あいつは、何もせず、なまけたヤツだな〜」という意味です。

「ずぐだれ」とは「怠け者」「横着者」という意味です。また、「グズグズしている者」「なかなか判断できない者」という意味で話す人もいます。

このようなことから、「ずぐだれ」とは発展して「評価できない人」「悪い人」という意味を持つことがあります。なお、ここで言う「悪い人」とは「悪いことをする人」ではなく、「良いことを阻害する」（例えば、怠け者がいますと、まちづくり・地域づくりは、なかなか進まなくなります）という意味です。

●すける・・・例題です。「雪かきすっから、すけでけろ」。これは「雪かきするので、手伝ってくれ」という意味です。

「すける」は「手伝う」という意味です。ただ、微妙な意味合いがあります。

例題の場合、父親が子どもに「雪かきするので、手伝え！」という場面より（このような場面もありますが）、私などは友人・知人などの頼む場面が思い浮かびます。なぜなら、「すける」には「助ける」という意味合いが含まれるからです。

親しい人には「すけでけろ」と言って頼むこともありですが、やんわり頼む時には「すけでけんにが」と言います。

●すけろ・・・例題です。「この机、はごぶがら、すけろ」。これは「この机を運ぶので、手伝ってくれ」という意味です。

「すけろ」は「手伝ってくれ」「手伝ってほしい」という意味です。

「すけろ」は同僚や同年代、子どもや年下・部下などに言う言葉であり、年上・上司・先輩の人へは言いません。

また、自分が手伝うことを「すける」とは言いません。「すけでけっから」（手伝ってあげるから）と言います。

●すっかい・・・例題です。「このみがん、すっかいごど」。これは「このミカン、すっぱいよ」という意味です。

「すっかい」は「すっぱい」という意味です。

ただ、私などは「このだいごんづげ、すっかくなつたずな～」というセリフが記憶に残っています。すなわち、時間の経過で酸っぱくなった食べ物（漬物など）に対する言葉という印象です。もちろん、「食べ物が悪くなった」という意味ではなく、「微妙な味の変化」という範疇です。

●すつつお～・・・例題です。「のみがた、すつつお～」。これは「飲み会、するよ（するぞ、やるよ、やるぞ）」という意味です。

「すつつお～」は「するよ」「するぞ」「やるよ」「やるぞ」「行うよ」「（これから）行います」という意味です。「すんぞ」と同じ意味です。

「勉強、すつつお～」「掃除、すつつお～」「お祭り、すつつお～」など、いろいろな場面で言うことができます。

●すっぱね・・・雨が降りました。道路が濡れました。砂利道なので、泥が混じった状態で濡れています。そこを歩きます。しばらく歩いて、足元を見ます。ズボンの後ろ側の裾に泥が付いています。歩いている際、道路の泥を跳ね上げたのです。このように、歩きながら道路の泥を跳ね上げること、また跳ね上がった泥がズボン・スラックスなどに付くこと、ズボン・スラックスなどに泥が付いた状態のことを「すっぱね」と言います。

「すっぱね」は、米沢だけでなく、青森県や宮城県など、東北地方各地でも使われている言葉です。東北地方以外でも使われているかもしれません。

「すっぱね、あげんなよ」は「泥跳ねにならないように歩きなさい」という意味です。しかし、私も「すっぱね」をあげやすい歩き方です。

●すっぺ・・・「しよう」「しましよう」「やろう」「やりましよう」という意味です。例えば、「鬼ごっこ、すっぺ」は「鬼ごっこ、しよう」という意味です。また「仕事、すっぺ」は「仕事、しよう」という意味です。

「すっぺ」は、「促す」とか「自分もするから、いっしょにしよう」というニュアンスです。

●すっぺだのこっぺだの・・・世の中には、行動する前に、または行動しようとする、あるいは行動しようとする提案すると、お口ばかりが元気になる人がおります。屁理屈を語ったり、言い訳したり・・・。そういう人に対して言うのが「すっぺだのこっぺだの、言ってんな！」です。

「すっぺだのこっぺだの」とは「なんだかんだ」「ああだのこうだの」「ああでもないこうでもない」というような意味です。ですから、「すっぺだのこっぺだの、言ってんな！」は「なんだかんだ、言うな！」という意味となり、「なんだかんだ、言うより、早くやろう（行動しよう）」という意味が込められます。

●すび：まずは例題です。「あいづ、洗うすびしゃねもんだがら、こまったもんだずな～」。例えば、農作業で鍬に土が付きますと、作業が終わったら、鍬は洗います。服に土が付いたら、その

服は洗わなければなりません。お茶を飲んだら、その茶碗は洗わなければなりません。ところが、世の中には、鍬が土で汚れようと、服が土で汚れようと、お茶を飲んで茶碗が汚れようと、まったくお構いなしで、洗おうとしない人がおります。

このように、まったくお構いなしで、洗おうとしない人に対して、例題のようなセリフが飛び出すわけです。つまり、例題は、直訳すると「あの人は、洗うことを知らないので、困ったものだ」となります。でも「洗うことを知らないので」というのも変です。それでニュアンス的には「自分で洗おうとしないので」という感じになります。ほかの例題としては「掃除するすびしゃねもんだがら」とか「謝るすびしゃねもんだがら」などがあります。

この「すび」という言い方ですが、ひょっとすると、米沢でも一部の人しか言わない言葉かもしれませぬ。まさに、土着的米沢弁です。

●すみっこ・・・これは、おわかりになるでしょう。「端」とか「隅」という意味です。秋田では「こ」を付ける言葉が多いそうですが、米沢でも「こ」を付ける言葉はあります。「おぎゃくさんきたがら、おまえ、すみっこさいろず〜」とは、子どもがよく言われるセリフです。これは「お客さんが来たので、お前は（邪魔にならないよう）隅の方にいなさい」という意味です。

●すんずぐれ・・・例題です。近所からサクランボをたくさんいただきました。赤く美味しそうに実ったサクランボです。家族みんなで食べます。中から実っていないサクランボが出てきました。小さく、色も赤くなっていません。ここで言うセリフは「こいづ、すんずぐれだ」。

「すんずぐれ」とは、果物や野菜などについて「実っていない」「生育しきれていない」状態を指す言葉です。

「すんずぐれ」は、方言というか、かなりローカルな言葉です。

●すんぞ・・・「するぞ」が訛ったもので、「するよ」「やるよ」という意味の言葉です。これは、自分もする（やる）から、いっしょにしよう（やろう）というニュアンスです。

例えば、「掃除すんぞ」は「自分も掃除するから、いっしょに掃除しよう（しろよ）」というニュアンスです。また、「はしんぞ」は「走るよ」「走るぞ」という意味であり、「自分も走るからいっしょに走ろう（走れ）」というニュアンスです。

●すんな・・・例題です。「いざづら、すんな」。これは「いたづら、するな」あるいは「いたづら、やめなさい」という意味です。

「すんな」には、このように、これから「する」「やる」ことに対して「するな」「やるな」という意味と、すでに「している」「やっている」ことに対して「やめなさい」という2つの意味があります。

高齢者にひとりで雪下ろしをしないように伝える時には、例えば「雪下ろし、すんなよ」と言います。

●すんべ・・・「すんぞ」と同じ意味合いの言葉ですが、「すんぞ」は「命令」に近いニュアンスに対して、「すんべ」は「命令」に近いニュアンスの場合もある一方で、「促す」というニュアン

スもあります。

例えば、「掃除すんべ」は「掃除するぞ」という意味もありますが、なかなか掃除しない相手に対して、「自分も掃除するからいっしょに掃除しようよ（しましよう）」という意味合いの場合もあります。

「すんべ」は「するべ」がさらに訛った言い方です。

●せせぐる・・・例題です。「おまえ、あだまいいずな～」「そがえに、せせぐんなず～」。これは「お前、頭いいね（かしこいね）」「そんなに、からかわないでください」という意味です。

「せせぐる」とは「からかう」「小馬鹿にする」という意味です。

ただ、この「せせぐる」は、米沢でも使う地域とあまり言わない地域があります。私もあまり使いませんでした。ただ、なんとなく聞いた記憶もありますので取り上げました。

「せせぐる」は、調べてみますと、米沢以外でも使われている言葉ですが、意味が違ってきます。会津では「突つつく」、栃木県では「探る」「せつない」という意味のようです。

●せっせど・・・「早く」という意味です。例えば、「せっせど、せえ」（早くしろ）という言い方をします。

●せつつぐ・・・例題です。「そがえに、せつつぐなず」。これは「そんなに急がせないでくれ」という意味です。

「せつつぐ」とは「急がせる」「せかす」「促す」「催促する」「督促する」というような意味です。「せつつぐ」という言葉があるということは、米沢にも几帳面な人、あるいは気の短い人がいるのでしょう。

●せづない（せづね～）・・・例題です。風邪を引きました。熱が出ています。そこで言うセリフは「せづないず～」「せづね～よ」です。

「せづない（せづね～）」とは体調的に「苦しい」という意味です。

看病では体調を聞く時「せづないが～」（苦しいか？）「せづなぐね～が」（苦しくないか？）と言います。それに対して「せづなぐね」（苦しくない）などと答えます。

これが転じて、生活的（経済的）にも精神的にも「苦しい」ことを「せづない」と言います。

※（2012年5月25日記載）今「せづない」思いをされている方が多いのは、容易に想像されません。就職しようとしても仕事が見つからないなどはその例です。家計にやりくりで毎日「せづない」思いをされている人もたくさんおられると思います。

そして、何より、東日本大震災と原発事故によって、多くの方が「せづない」思いをされています。放射線がもたらす恐怖による「せづない」思い。米沢などで生活することで、二重生活による経済的「せづない」思いや、精神的な葛藤による「せづない」思いなど。

ここまで、「せづない（せづね～）」について、身体的・肉体的に「苦しい」や、生活的（経済的）・精神的な「苦しい」と説明しましたが、「せづない（せづね～）」にはもう1つの意味があり

ます。

なお、「せづない（せづね〜）」は標準語の「せつない」から訛ったものと考えられますが、標準語の「せつない」は、なんとなくですが、文学的あるいは気取った感じがするのに対し、「せづない（せづね〜）」は日常会話の中で使われる言葉です。それで、単純に「せつない」から訛ったのが「せづない（せづね〜）」ではないニュアンスを感じていますので、方言としてご紹介しました。

●せづない（せづね〜）・・・悲しみや恋しさから来る「胸が詰まる思い」による「苦しい」思いを「せづない（せづね〜）」と言います。

例えば、大切な人を亡くした時、失恋した時、ごく親しくしていた友人と別れなければならなくなった時に、「せづない（せづね〜）」思いをします。

●せでぐ・・・例題です。「あそびさいぐなあべ。おぼごんどご、せでってけろず」「わがっただず〜。せでぐがら」。これは「（これから）遊びに行くのでしょ。（であれば）子どもも連れてってください」「わかった。連れていくから」という意味です。

「せでぐ」は「連れていく」という意味です。

●せまこい・・・例題です。「この部屋、せまこいごど」。これは「この部屋、せまいね」という意味です。

「せまこい」は「狭い」という意味です。

「狭い」には、面積が小さい・広さが小さいという意味の「狭い」、入口が狭いなど幅や長さが小さい意味の「狭い」、物の見方や心の広さが小さかったり、知識・情報量が豊かでない意味での「狭い」（例：視野が狭い）などがありますが、「せまこい」は「面積が小さい・広さが小さい」や「幅や長さが小さい」意味になります。

例題です。部屋を散らかして居場所を狭くしていると「せまこぐしてんなず」と叱られます。例題です。自動車屋さんで勧められた車に試乗します。そして言ったセリフは「この車、せまこいごど」（この車、乗ってみたら、中は狭いな〜）。

例題です。「この店、せまこぐねえでら」。これは「この店、狭くないですね」（思ったより広いですね）という意味です。

●せわしない・せわしねえ・・・例題です。「あいづ（は）せわしないごど」。これは「あいつ（あの人）は、（いつも）落ち着きがないね」、あるいは「あいつ（あの人）は、（いつも）忙しそうだね」という意味です。

「せわしない・せわしねえ」には、2つの意味があります。1つは人の性格に対する言葉です。それは「落ち着きがない」「そわそわしている」という意味です。もう1つは「忙しい」という意味です。

「きょうはせわしねえじゃ〜」は「きょうは忙しいな〜（忙しくなるな〜）」という意味です。

ただ、「あの会社は忙しいよ」という意味で「あの会社は、せわしないごと」という言い方はしません。少なくとも私は、個人の性格・個人の状態を指して言います。

●せんだって・・・例題です。「せんだっては、ごめんどうになって、おしょうしな」。これは「先日は、お世話していただき、ありがとうございます」という意味です。よく、おばあちゃんが言うセリフです。

「せんだって」は「先日」という意味で、「こないだ」「こね（え）だ」と同じ意味です。

●そがえな・・・「そがえなごどすんなず～」。さて、おわかりになりますか。「そがえな」とは「そんな」という意味です。ですから、例題の意味は「そんなことしないでください」です。嫌がられること、余計なことをしますと、このセリフが返ってくるわけで、「そんなことするな！」と訳すのが適当かもしれません。ただ、私的には、余計なことに対する言葉というより、嫌がられることに対する言葉のニュアンスが強いです。

これに近い言葉もご紹介します。

●そがな・・・「そがえな」と同じで「そんな」という意味です。

●そがに・・・「そがにすんなず～」。これは「そんなにしないでください」という意味です。もっと詳しく言いますと「そんなにたくさんしないでください」ということになります。ここには「余計にそこまでしなくてもいい」とか「自分はそこまで出来ないので、そんなにしなくてもいい」という意味が含まれています。

もうひとつ例題です。「そがにいそぐなず～」。これは「そんなに急がないでください」という意味です。「急がなくても良いです」という感じではなく、「おれ、そがにはやぐさんにがら、いそぐなず～」つまり「自分はそんなに早くできませんので、急がないでください」という意味合いになります。ということで、「そがに」とは「そんなに」という意味です。「そがえに」と言うこともあります。

●そげな・・・「そげなごどすんなず～」。これも「そんなことしないでください」という意味で、嫌がられること、余計なことをしますと、このセリフが返ってします。だから、ニュアンスとしては、「そんなことするな」とか「そんな余計なことはするな」という意味合いになります。ただ、私的には、嫌がられることに対する言葉というより余計なことに対する言葉のニュアンスが強いです。

もうひとつ例題です。「そげなごどないべ」。これは「そんなことはないでしょう」とか「そんなことはないはずだ」という意味です。ということで、「そげな」とは「そんな」という意味です。

このように「そんな」でも、米沢弁では微妙に言い方が違ってきますのであります。

●そさ・・・例題です。「そさ、あんべ」。これは「そこに、あるだろう」という意味です。

「そさ」は「そこに」「そこへ」という意味です。

同様に「こさ」は「ここに」「ここへ」という意味です。例えば、「こさ、こいず」（ここに来なさい）と言います。

しかし、「あそこに」「あそこへ」は「あさ」という言い方はしません。「あそこさ」「あそこさ」と言います。例えば、「あそこさ、いぐべ」（あそこに行こう）と言います。

●そじる・・・例題です。「この服、そじだな〜」。これは「この服、ボロボロになったな〜」という意味です。もうひとつ例題です。「この家、そがえにそじでねな」。これは「この家、そんなに傷んでいないね」という意味です。

このように「そじる」は、物が「傷む」という意味です。「この車、そじだな」「この本、そじだよ」などと言います。

ただし、食べ物「傷む」ことを「そじる」とは言いません。

●そだす・・・例題です。「この服、きていいげんども、そだすなよ」。これは「この服、着てもいいが、傷めるなよ」という意味です。

「そだす」とは、「(物を) 傷める」という意味です。「そじる」は、「自然に」あるいは「いつの間にか」「(物) が痛む」という意味ですが、「そだす」は、過失であっても、人の行為によって「(物) が痛む」という意味、つまり「(物を) 傷める」という意味になります。

「ぼっこす」が「壊す」という意味に対して、「そだす」は「傷める」です。例えば、カメラを壊して撮影できなくなった場合は「ぼっこした」と言い、「そだした」とは言いません。

具体的には、例題の「服をそだす」は、服を「ボロボロにする」「すり切らす」「破く」という感じです。こういう状態は、着ることができないわけではありません。ただ、実際には「着たくない状態」です。

「着たくない状態」にいたってなくても、ちょっと傷んだ状態にしますと、「そだした」ことになります。

●そだな・・・例題です。旅行するため駅に来ました。電車が動いていません。これでは旅行できません。そこで言うセリフは「そだな」。

「そだな」とは「そんな」という意味です。

例題は「そだな」という最も簡単な言い方です。がく然として思わず発した「そだな」です。

「そだな」の言い方には「そだなごど・・・」(そんなこと・・・)「そだなごど、ないべ」(そんなこと、ないでしょう)「そだなごど、あつかず」(そんなこと、あるんですか)などがあります。

例題です。「こいず、けっから」「そだなもの、いらね」。これは「これ、あげるから(あげるよ)」「そんなもの、いりません」という意味です。

「そだな」は、事柄・事象でも言いますし、物に対しても言います。

例題で示したように、「そだな」は、マイナスとなる事柄・事象に対して、不要な物に対して言います。ですから、「そだな(ごど)、いいごどだ」とは「そだな(もの)、ほしがっだず〜」という言い方はしません。

●そつけな・・・例題です。子と親の会話です。「あした、A君のうっちゃいって、あそんでくっちゃ」「そつけな(ごど)してねで、勉強しろず」。これは「明日、A君の家に行って、遊んでこよう」「そんなことしてしないで、勉強しなさい」という意味です。

「そつけな」は「そんなこと」という意味です。この場合の「そんなこと」とは「望まないこと」「してほしくないこと」「くだらないこと」などの意味です。

例題ですと、「A君のうっちゃいがねで、勉強しろず」とも言いますが、A君の家に行くことが「望まないこと」「してほしくないこと」「くだらないこと」であることを表現するために「そつけな（ごど）してねで・・・」と言ったわけです。

もうひとつ例題です。「掃除しろず」「そつけな（ごど）、してらんに」。これは「掃除しなさい」「そんなこと、してられません」という意味です。

この場合も「そつけな」も「そんなこと」という意味です。しかし、先に紹介した意味とは違います。この場合の「そんなこと」は「イヤなこと」「意に反すること」を指します。

例題ですと、「掃除することがイヤだから」という場合や、「他人が散らかしたのに、なぜ自分が掃除しなければならないのか」という思いから、「そつけなごど、してらんに」と言ったわけです。

●そつけなごど・・・私は今でも時に使う言葉です。例題です。「そつけなごどないべ」。これは「そんなことない」という意味ですが、「そんなことはあり得ない」という感じです。つまり、「そんなこと」「そのこと」を強く否定する時に「そつけなごど」と言って「ないべ!」と否定するのです。

「そつけなごど、ウソだべ」とか「そつけなごど、言ってんなず〜」とも言います。

いずれにしても「そつけなごど」とは「そんなこと」「そのこと」という意味ではありませんが、否定されるための言い方です。

●そばえる・・・これは「あまえる」という意味です。ですから「そばえっこ」となりますと「甘えっ子」という意味になります。

「おらえのおぼごは、そばえでばつがりいんなだず〜」とは「私の子どもは、甘えでばかりいるんです」という意味です。

子どもは、見知らぬ大人の人を会う時や、おじさん・おばさんに会う時、恥ずかしがることがあります。それなのに、大人はそれを「そばえっこ」と言ってしまうことがあります。「あまえる」と「恥ずかしがる」とは違うのに・・・。

●そんぴん・・・米沢を代表する方言のひとつです。「ひねくれ、偏屈、へそ曲がり、すねる」という意味です。一部には「頑固」を意味すると説明しているものもありますが、私は違うと思います。

例題です。「あいつは、オレのいうごど、さっぱりきがねくて、そんぴんたがりだずな〜」。これは、「あいつは、私の言うことを、まったく聞かず、偏屈なヤツだな〜」という意味です。この「私の言うことを」は、例えば「いっしょに遊ぼう」とか「いっしょに美味しいものを食べに行こう」など、誰もが喜びそうなことを誘っても、ことわってしまう人のことも指します。

「そんぴんたがり」とは、「そんぴんな人」つまり「偏屈者」「ひねくれ者」「変わり者」「へそ曲がり者」という意味です。「たがり」は、米沢・置賜地方だけでなく、村山地方でも言います。

「そんぴん」だと、みんな嫌われる、ということでもありません。「みんなで遊びに行こう」という時「オレは勉強する」と言えば、その人は「そんぴんたがり」になりますが、「あいつはそういうヤツなんだ」と割り切られてしまいますと、嫌われることにはなりません。逆に、尊敬され

る「そんぴんたがり」になったら、それこそ表彰ものです。

「そんぴん」には、その場の空気が読めない人にも言う場合があります。

●たいしたきして・・・例題です。「あいづよ、本当はなんにもさんにくせに、たいしたきして、させるふりして、えぼるなよ。やんだずな〜」。これは「あの人、本当は何もできないのに、できるふりして、威張るんです（偉いふりするんです）。イヤですね〜」という意味です。つまり、「たいしたきして」とは、できないのに、あるいは知らないのに、できるふり、知っているふりをして、大きな態度、威張るような態度をする状態（人）のことを言います。「生意気」と訳する場合がありますが、それとも若干ニュアンスが違います。

できるふり、知っているふりをするくらいなら、笑い飛ばすこともできるでしょう。しかし、そこに、大きな態度、威張るような態度をされたら、大抵の人は、その人を嫌がるでしょう。それが「たいしたきして」と表現されるのです。

●たいらに・・・あるお家を訪問します。家の人が出てきました。そして「中に入っておごやえ（中に入ってください）」と言って部屋に通します。部屋は和室です。客は正座します。そこで家の人と言います。「さあ、たいらに」あるいは「たいらにしてくだ（さ）い」と。これは「足を崩して座ってください」とか「楽にしてください」という意味です。

「たいら」を調べますと、辞書にも掲載されていて、「楽な姿勢で座っているさま」と説明しています。そうすると、「たいら」は方言とは言えなくなります。でも、昔から私の周囲でも聞いた言葉です。しかも、使い方は「たいら」ではなく「たいらに」です。それから、辞書の中には「多くは『おたいらに』の形で用いる」と説明しているものもありますが、米沢で「おたいらに」という言い方は、ほとんど聞きません。

というわけで、「たいらに」は、米沢でしゃべらっちえきた言葉の代表的例です。

●たがぐ（「が」は半濁音）・・・例題です。明日、私は“だがしや楽校”の取材でビデオカメラを「たがって（い）ぐ」。これはビデオカメラを「持って（い）く」という意味です。

もうひとつ例題です。「その荷物、たがってけろ」。これは「その荷物、持ってけろ（持ってください）」という意味です。

「たがぐ」は「持つ」という意味です。私は今でも頻繁に使います。何の気なしに使っています。ポピュラーな方言（米沢弁）のひとつだと思います。

●たがる（「が」は濁音）・・・「たかる」がなまった言い方で、意味は「たかる」とほぼ同じです。

例題です。「ア리가たがってだ」は、ア리가好物を見つけて「集まっている」「群がっている」様子を言ったセリフです。アリの場合は行列を作ることが多いです。

「たがる」は「集まる」「群がる」という意味です。

アリの好物がほしいから「たがっている」わけです。このように自然な『欲求』による「たがる」こともあります。人間では『欲望』によって「たがる」こともあります。

例えば、仕事もしないで親に金を「せびる」ことを「たがる」と言います。「いつまでも親さたがってんなず〜」（いつまでも親に金をせびっているな、いつまでも親を頼っているな）「あそご

のむすご、まだ親さたがってんなだじさ」(あそこの家の息子はいまだに親に金をせびっているんだよ、あそこの家の息子はいまだに親を頼っているんだよ) などのような言い方をします。

「たがる」のはお金だけではありません。「昼飯おごれ」は食事を「たがっている」(せびっている) セリフです。

ここまでは日常あり得ることですが、さらに「たがる」には「脅し取る」「奪い取る」という意味もあります。

●たがる・・・例題です。「ストーブ、たがったが?」。これは「ストーブに火が付いたか?」「ストーブは暖かくなったか?」という意味です。

もうひとつ例題です。「お風呂、たがったが?」。これは「お風呂のお湯、沸いたか?(適温になったか?)」という意味です。

「たがる」とは、元々は「火が付く」という意味です。例えば、「巻に火が付く」は典型的な「たがる」です。それが転じて「(ストーブやお風呂などが) 暖かくなる、適温になる」という意味にもなりました。

最近では「ボイラー、たがったが?」という言い方をします。これは「ボイラーにスイッチが入ってお湯が出る状態になったか?」という意味です。

「たがる」は「たく」がなまった言い方とも言えますが、標準語の「たく」(炊く)は「ご飯を炊く」というように、米などの穀物に火を通すことを指す言葉で、「(巻に) 火が付く」という意味ではありません。そう考えますと、「たがる」は「たく」は別言葉と言えます。

●たがる・・・例題です。「ストーブにたがる」。これは、「ストーブで身体をあたためる」「身体をあたためるためにストーブの周りに来る」という意味です。

「たがる」は「(ストーブやお風呂などが) 暖かくなる、適温になる」と説明しました。これに対して、ここで言う「たがる」は「たがったストーブ」に「身体をあたためる」という意味の「たがる」です。

また、「集まる」「群がる」から転じて、身体をあたためるためにストーブに「集まる」「近づく」「周りに来る」という意味もあります。この場合の「たがる」には「せびる」「脅し取る」「奪い取る」という意味はありません。

●たごまる・・・「からむ」という意味です。糸がからんでも「たごまる」、衣服がからんでも「たごまる」と言います。昔の洗濯機はよく「たごまって」困ったものでした。

ただし、人間がからんでも「たごまっている」とは言いません。

●たっちゃ・・・「出た」という意味ですが、「出た」イコール「たっちゃ」ではありません。特定のものが「出た」時に言います。

例題です。「ばっこ、たっちゃ」は「うんち、出た」の意味です。「おしっこ、たっちゃが～」とは、おしっこに時間がかかっている子どもに「おしっこ、出たか?」という意味で言います。

「おしっこ、たれっか」とは、おしっこを我慢している子どもに「おしっこ、出るか?」という意味で言います。

ただ、おしっこを我慢している子どもは単純に「おしっこ、出る！」と叫びます。「おしっこ、たれる」とはあまり言いません。

●だっぷり・・・「たっぷり」とか「いっぱい」という意味です。具体的には、モノが器に対して満杯になっている状態を言います。「たっぷり」が訛った言葉かと思えます。

例えば、中華そば（ラーメン）のつゆ（スープ）がどんぶりにいっぱい入っていると、「だっぷりだ」「つゆ、だっぷりだ」「つゆ、だっぷり入っている」「だっぷり、つゆ入っている」と言います。

「だっぷり、いっちえけろ」とは「たくさん、入れてくれ」という意味です。

「だっぷり、ご飯（めし）、もってけろ」とは「（ご飯茶碗に）ご飯をたくさんもってくれ（大盛りにしてくれ）」と言う意味です。

ただ、おちょこのような小さな器の場合、「さけ、だっぷりついでけろ」と言う人もいれば、小さい器では「だっぷり」は使わない人もおります。

●だで・・・例題です。「あいづは、だでやづだ」。これは「あの人は、うざったい人だ」「あの人は、けむたい人だ」「あの人は、いやな人だ」「あの人は、くどい人だ」「あの人は、しつこい人だ」というような意味です。要はきらい人に対して形容する言葉です。

例題です。「おまえは、だでやづだな～」は、本人に対して面と向かって言っている例ですが、これも「やづ」を形容しています。

例題です。「あいづ、だでずな～」は、「あの人、いや（な人）ですね」というニュアンスです。

●たてる・たでる・・・例題です。「戸、たてでけろ」。これは「戸を閉めてください」という意味です。しかし、この意味がわからないと、「すでに立っている戸を、どうやって立てるの？」となってしまいます。

「たてる・たでる」は「閉める」という意味です。それも「（戸を）閉める」という意味です。玄関や部屋の入口の戸、部屋と部屋の間のおすまを閉める時は「たてる・たでる」と言います。

ただ、住宅の構造の関係からだと思いますが、窓を閉める時には「たてる・たでる」とは言わなかったと記憶しています。同様に、洋室のドアや扉も「閉める」です。

●だでごど・・・例題です。「あいづ、だでごど」。これは「あいづ」が「したこと」に対して「だでごど」と言っています。つまり、「したこと」について「いやだね」「困ったものだ」と言っているのです。

例題です。「あいづ、そがなごどしたなが。だでごど」。これは「あの人、そんな（きらわれる）ことしたのですか。いやだね」というような意味です。この「だでごど」は、その人への評価のほかに、その人がやった行為やその行為で引き起こされた事象に対して評価する言葉です。

さらに細かく説明しますと、この例題の「だでごど」は、その人がやった行為や事象を直接見て言ったのではなく、人から聴いたその人の行為やその行為で引き起こされた事象に対して、イヤな気分になったことを含めて、言ったのです。だから、人から聴いたことに対する反応である「いやだね」と訳したのです。

もちろん、その行為やその行為で引き起こされた事象は、きらわれること、いやがられることです。

もうひとつ例題です。「おまえ、だでごど」。これは、本人に対して直接言った事例です。意味としては、その人の行為やその行為で引き起こされた事象を通して、イヤな気分になったことを含めて評価する場合と、その人そのものに対して評価する意味（「だで」の形容ではなく、「おまえ」という主語に対する述語で使っています）があります。

●だでな・・・例題です。「おまえ、だでな」。これは「おまえ、しつこいな」「おまえ、くどいな」という意味です。

この「だでな」は、直接本人に対して言う場合が多いです。

●たねる・・・意味は「さがす」で、私は今でも頻繁に使います。

例題です。携帯（電話）が見当たらなくなります。そこで言うセリフは「携帯、たねでけろ」。これは「携帯、さがしてくれ（さがしてください）」という意味です。

仕事で使う資料をどこかに置き忘れてしまいました。そこで言われるのは「たねでこい」（さがしてきなさい）、「たねなんねごで」（探さなければならぬぞ）です。

「仕事、たねでくっか」は、ハローワークに行って「仕事、さがしてくるか」「仕事、見つけてくるか」という意味です。

衣料品店でセールがあります。そこで言うセリフは「良い服、たねでくっちゃ」。これは「気に入った服をさがしてくる」という意味です。おそらく、気に入った服があれば「買います」となるでしょう。

このように「たねる」にも、いろいろな意味があります。ひとつは、紛失したもの・見失ったものを「さがす」という意味です。また、ほしいものを「さがす」という意味もあります。ほしいものにもいろいろあります。例題の衣服は、趣味性での「ほしい」ですが、必然的に「ほしい」ものもあります。例えば、仕事や住まい（住宅・アパート・マンション・下宿）などです。

さらに、「さがす」には「人をさがす」という意味もあります。例えば、子どもが迷子になりました。そこで言うセリフは「みんなで、たねんべ」（みんなで、さがそう）。

●たまる・・・例題です。「このシャベロ、すぐぼっこたまんず」。これは「このスコップ、すぐに雪がくっつくよ！」という意味です。

スコップを使って雪かきをしています。スコップの面に雪がくっ付いたのでは、雪かきはスムーズに出来ません。雪は雪かきには邪魔なものです。このように、仕事や遊びに邪魔な雪がこびり付くことを「たまる」と言います。

お金が「貯まる」のは歓迎ですが、こちらの「たまる」は困りものです。

また、この「たまる」と「溜（た）まる」とは意味が違います。「溜（た）まる」は「物・人・事が入るだけで出ていかなかったり、出るより入る方が多く、そこに溜（とど）まる量・数が多くなっていくこと」です。これに対して「たまる」は「表面にこびり付く」ことです。

●だみ・・・葬式のことです。例えば、「あそごんどごで、だみでだど」は「あそこの家で（亡く

なった人がいて) 葬式をすることになったそうだ」という意味です。

「だみ」という言葉を調べますと、全国でも通用しそうな言葉ですが、説明されている例はほとんどなく、結局は米沢・置賜地方の方言に落ち着きました。

●たわいない・たわえない・・・例題です。あまりの暑さに、子どもが、服を着たまま、バケツの水を頭からザブツとかけてしまいました。ビショ濡れになった子ども、泣いてしまいました。そこで言うセリフは「たわいないごど、してんなず」。

「たわいない・たわえない」とは「くだらない」「愚か」「とんでもない」「良くない」「馬鹿くさい」というような意味です。

例題では「たわいないずな～」という言い方をすることもあります。これは「お前は愚か(者)だ」という意味です。

いたずらをしたり、ちょっと迷惑なことをしたりしますと、それは「たわいない」ことにもなります。

●だんころ・・・例題です。冬です。雪が降りました。除雪車が来ました。道路を除雪したのは良いですが、家の前に大きな雪のかたまりが置かれてしまうことがあります。その時言うセリフは「だんころ、おいでがっちゃ！」

「だんころ」は「大きなかたまり」という意味です。「だんころ」は、雪だけでなく、いろいろな「大きなかたまり」を指す言葉です。

蕎麦作りでは、蕎麦粉に水を含めながらこねていきます。やがてひとつのかたまりになります。そこで言うセリフは「だんころみだぐなった」(大きなかたまりのようになった)です。

●だんち・・・おばあちゃんが小さな子ども(幼児)に「だんち」と言っています。これは「お座りしましょう」という意味です。

ようやくお座りができるようになったお子さんに「お座りしましょう」という意味で言う「だんち」。おとなしくしていないお子さんに「お座りしましょう」という意味で使う「だんち」。

「だんち」は幼児に対して使う言葉です。幼児限定です。

●たんと・・・ばっちゃん(おばあちゃん)がお孫さんに「おりこうさんにさっちゃんから、た～んと、だぢん、けっからな～」と言っています。さて、この意味は何でしょう。これは「お利口さんにしていたので、たくさん、ご褒美(お駄賃)をあげるからね」という意味です。

つまり、「たんと」とは「たくさん」とか「いっぱい」という意味です。量が多いことを示している言葉です。「た～んと」は、量が多いことを強調する言い方です。また、大人に対して「た～んと、けっからな」とは言わないと思います。「たんと」は子どもに対しての言い方です。

この「たんと」は、米沢だけではなく、山形県で広く使われている方言です。例えば、東根市には“さくらんぼタントクルセンター”があります。

●だんなし・だんなしゅう・・・だんな(旦那)には、いろいろな意味があります。例えば、妻が第三者の「夫」のことを表現するのに「うちのダンナは・・・」という言い方をします。また、

商家の主人のことを、そこに雇われている人、あるいは地域の人が「ダンナ様」という言い方を
する例もあります。

「だんなし・だんなしゅう」は、後者の「商家の主人」を指す言葉です。特に米沢では、機織
り（米沢織）の経営者（経営一族）を指す言葉でした。

あまりなことを申し上げますと、叱られるかもしれませんが、米沢の特産品である「米沢織」
もその昔は、一部の「だんなし・だんなしゅう」と数多くの「工場で働かされる人」という構図
でした。「工場で働かされる人」の多くは、少ない休日・安い賃金で、黙々と働いてきました。だ
から、米沢では昔から「共働き」が当たり前でした。

休日について言いますと、お盆休みは8月15日と16日の2日間だけ。しかも、8月としての
休みは4日しかありませんので、8月上旬の日曜日と下旬の日曜日、それに8月15日と16日だ
けが休日でした。

そうした中で生まれた言葉が「だんなし・だんなしゅう」です。だから、この言葉には単なる
「経営者」という意味だけではない、裏に隠された意味があるのです。

米沢織は今でも残っていますし、関係者が懸命になってPRに努めています。しかし、あの当
時の「だんなし・だんなしゅう」と言われる人が、経営者としての努力を行っていたなら・・・
と思っても仕方ないですね。

それにしても、こうして書いていますと、あの当時、米沢市内を歩いていると、どこからでも
織機の音が聞こえた時代を思い出します。

方言を紹介するのに、地域の微妙な状況を説明しなければならない場合があります。

●たんに・・・例題です。お家の前で飲み会です。あまりの暑さに、みんなビールを飲みます。
いつの間にか、ビールが無くなってしまいました。そこで出たセリフは「ビール、たんにぞ！」。
これは「ビール、足りないよ」「ビール、足りなくなった」という意味です。もちろん、この裏に
は「ビール、もっと買って来い」という意味があります。

「たんに」は「足りない」という意味です。いろいろな「足りない」場面で使われる言葉です。
ただ、「たんに」は「物が足りない」のほかにも意味があります。例えば、誤って水溜まりに入
り、ビショ濡れになり、泣いてしまった子どもに対して、「たんにずな」「たんにごどしてんな」
という言い方をします。これは「注意が足りない」「考えが足りない」ということから来ている言
葉です。

さらに「こったんにごどしてんな」という言い方もあります。「こったんに」とは「馬鹿」に対
する「小馬鹿」と同じような感じで、「たんに」の頭に「こ」を付けた言葉です。

●たんぺ・・・「つば（唾）」のことです。

小さなお子さんは、お口をとんがらせて「ブー」とすることがあります。その際、お口からつ
ばが出てくることもあります。そのつばが、顔にかかりますと、「たんぺ、ひっかけらっちゃ〜」
というセリフが飛び出します。

「たんぺ」は、米沢だけでなく、仙台などあちこちで使われている言葉のようです。

●だんぼくみ・・・これは「汚物（屎尿）くみ取り」のこと、あるいは「汚物（屎尿）をくみ取

る車」つまり「バキュームカー」のことを指す言葉です。

昔は「だんぼくみ、たのむべ」とか「だんぼくみ、来たぞ」などと言ったものです。しかし、米沢でも下水道が整備されつつあり、「だんぼくみをたのむ」場面は少なくなっています。

●ちかま・・・例題です。「あいつ、ちかまさ、いだんでねえが」。これは「あいつは、近くにいるのではないか」という意味です。

「ちかま」とは「近く」「近い」という意味です。

「おまえのうち、どごよ」「ちかまだず」は「お前の家はどこにあるの」「(ここから)近いよ(近くです)」という意味です。

●ちだらまっか・・・例題です。子どもが外遊びをしています。子ども、転びました。膝を擦り剥きました。膝からたくさんの血が出てきました。膝は赤い血で染まりました。子ども、泣いて家に帰ります。膝を見たおばあちゃんが言います。「なにしたんだず(なにしたごんだ)。ちだらまっかだでら」と。これは「なにをしたのか。血で真っ赤になったのではないか」という意味です。

「ちだらまっか」とは、出血して、怪我をしたところが血で染まり、赤くなってしまった状態のことを指している言葉です。

「ちだらまっか」とはおもしろい言い方です。これは、おそらく「血だらけになって真っ赤になった」ことを端的に言い表した言葉であることは想像できます。ただ、全国に通じる言葉ではなさそうで、わかった範囲では、米沢のほかに、福島県や栃木県あたりで使われているようです。

●ちちゃこい・・・例題です。「おらだ、ちちゃこいどきは、くりひろって、くったもんだ」。これは「自分たちが小さい頃には、栗を拾っては、よく食べたものです」という意味です。

もう1つ例題です。「このまんじゅう、ちちゃこいごど」。これは「このまんじゅう、小さいね」という意味です。

「ちちゃこい」とは「小さい」という意味ですが、2つの意味があります。

1つは「子ども」。標準語でも、自分の子ども時代を指して「小さい頃」と言います。

もう1つは、大きさに於いて「小さい」という意味です。

「ちちゃこい」については、方言ではないかもしれませんが、「米沢でしゃべらっちえきた言葉」としてご紹介します。

●ちっと、ちびっと、ちょぺっと・・・いずれも「少し」という意味です。例題です。宴会です。お酒を注ぎます。注がれた方が言います。「ちっとでいい」「ちびっとでいい」「ちょぺっとでいい」と。

これらの言葉は「ちょっと」から訛った言葉であることは容易に想像できます。

これらの言葉の中で、「ちっと」という人が多いかな・・・思います。「ちびっとでいい」は「本当に少しでいい」というニュアンスでしょうか。お酒を「ちびり、ちびり」と飲む人もおられます。

「ちょぺっと」は、なんとニュアンスを説明したらいいでしょう。「ちょぺっと」という人は少ないと思われます。「ちょぺっと」と言うと、同じ米沢でも「お前、そがなごどしゃべんなが？」

「オレ、そがなごとゆわね」とバカにされるかもしれません。私自身、子ども時代「ちょぺっと」

はあまり聞いたことがありません。

●ちみたい・・・「つめたい」がなまった言い方です。

例題です。外で遊んでいた子どもが帰ってきました。寒そうにしています。それで子どもの手をさわってみますと、表面が冷たくなっていました。そこで言うセリフは「ちみたいごど！」。

冷たい水に触れて言うセリフは「ちみたいごど！」（冷たい！）。氷にさわっても「ちみたいごど！」。

このように、物や身体に触れて「ちみたい」とは言いますが、心が冷たいことに対してまで「ちみたい」とは言いません。

●ちやいちやいして・・・「きやます」と同じような意味で、「調子に乗っている」「いい気になっている」という意味です。そして、そこには「鼻が高くなっている」つまり「天狗になっている」「自慢している」とか「大きな態度、威張るような態度になっている」という意味合いまで含まれます。

「あいづ、ちやいちやいしたじさ」（あの人、いい気になっていたよ）とか「ちやいちやいしてんな」（いい気になっているな）という言い方をします。

●ちゃっこい・・・例題です。「このみがんのちゃっこいごど」。これは「このミカンの小さいごど」という意味です。

「ちゃっこい」は「小さい」という意味です。「小さい」は「(物が)小さい」という意味だけではありません。

例題です。子どもたちの遊びの場面です。「おまえ、ちゃっこいがら、はめらん」。これは「おまえは小さいので、(この遊びには)入れられない」という意味です。この場合の「ちゃっこい」は「年齢が低い」という意味です。

●ちょうま（発音通りに表記すると「ちょおま」）・・・これは「蝶」を指す言葉なんですね。山形県でも通じるところと通じないところがあるようです。

私自身は子どもの頃から「ちょうちょ」と言っており、「ちょうま」とは言わなかった記憶です。しかし、周りに「ちょうま、とんでだ」という人がいましたので、昔から知っていた言葉です。

●ちょこっと・・・例題です。「ちょこっと、ちょうだい」。これは「少し(だけ)ください」という意味です。これは、例えば、ご飯茶碗にご飯をよそってもらう時に言うセリフです。

この場合の「ちょこっと」は「少し」という意味です。

さらに例題です。「ちょこっとしかないでら」は「少ししか、ないよ(ないではないか)」という意味です。お菓子が少ししかない時などに言います。

例題です。「ちょこっとだけ、してけんにか」。これは「少しだけ、してくれないか」という意味です。これは「少しだけ、仕事してくれないか」「少しだけ、手伝ってくれないか」といった意味があります。

この場合の「ちょこっと」は、量の「少し」という意味から広がって、仕事量など、触れるこ

とができない量、その瞬間に目で見ることができない量の意味もあります。

「ちょこっと、行ってこい」は、「ちょっとそこまで、行ってきてくれ」という意味です。つまり、近いところ（近距離のところ）まで行ってきてくれ、と頼んでいる場面です。

この場合の「ちょこっと」は、距離に対しても使った例です。このように「ちょこっと」には「ちょっと」という意味もあります。ただし、「ちょっと」には、声かけの「ちょっと」もありますが、「ちょこっと」には声かけの「ちょっと」の意味はありません。

ほかにも「ちょこっとだけ、おもしろかった」（少しだけ、おもしろかった）、「ちょこっとは、そう思う」（少しは、そのように思う）など、いろいろな場面で使われます。

●ちよこまか・・・「あいづは、ちよこまかしてんずな〜」という言い方をします。この「ちよこまか」とは「細かく動く」「落ち着きなく動く」「ちょろちょろしている」という意味です。この場合の「ちよこまか」は良い意味ではありません。

一方で、こんな言い方もあります。「あいづは、ちよこまかうごくじさ」。この場合の「ちよこまか」は「細かいところまで良く動いてくれるよ」という意味です。この場合の「ちよこまか」は良い意味です。

●ちょぺっと・・・例題です。「ちょぺっと、ちょうだい」。これは「少し（だけ）ください」という意味です。これは、例えば、ご飯茶碗にご飯をよそってもらう時に言うセリフです。

「ちょぺっと」は「少し」という意味で、「ちょこっと」とほぼ同じ意味です。ただ、私の印象では、「ちょこっと」は米沢でも使いますが、「ちょぺっと」は山形市周辺で使われることが多い言葉という印象です。

さらに例題です。「ちょぺっとしかないでら」は「少ししか、ないよ（ないではないか）」という意味です。お菓子が少ししかない時などに言います。

例題です。「ちょぺっとだけ、してけんにか」。これは「少しだけ、してくれないか」という意味です。これは「少しだけ、仕事してくれないか」「少しだけ、手伝ってくれないか」といった意味があります。

この場合の「ちょぺっと」は、量の「少し」という意味から広がって、仕事量など、触れることができない量、その瞬間に目で見ることができない量の意味もあります。

「ちょぺっと、行ってこい」は、「ちょっとそこまで、行ってきてくれ」という意味です。つまり、近いところ（近距離のところ）まで行ってきてくれ、と頼んでいる場面です。

この場合に「ちょぺっと」は、距離に対しても使った例です。このように「ちょぺっと」には「ちょっと」という意味もあります。ただし、「ちょっと」には、声かけの「ちょっと」もありますが、「ちょぺっと」には声かけの「ちょっと」の意味はありません。

ほかにも「ちょぺっとだけ、おもしろかった」（少しだけ、おもしろかった）、「ちょぺっとは、そう思う」（少しは、そのように思う）など、いろいろな場面で使われます。

●ちよりちよりになる・・・例えば、髪の毛がパサパサになった状態を「髪の毛がちよりちよりになった」と言います。例えば、草花などが凍ってしまい、しなやかさが無くなり、パサパサになった状態を「ちよりちよりになった」と言います。

「ちよりにちよりになる」の説明を考えましたが、説明文がなかなか作れません。それだけ感覚的に使っていた言葉になるのでしょうか。

「ちよりにちよりになる」は単に「乾燥する」という意味だけではありません。凍り付くとパサパサになってしまいますが、そんな状態を「ちよりにちよりになる」と言います。

●ちよろから・・・あっちにいたかと思うとこっちにいたり、いつの間にか、あるいは一瞬にして目の届かないところへ行ってしまふ行動のことを「ちよろから」と言います。だいたい、子どもの行動を指します。人混みや雑踏で「ちよろから」されると、親は心配になります。

●ちよろこい・・・「動きが素早い」「落ち着きがない」状態や性格を指して言う言葉です。

例題です。ちょっと目を離れたスキに、子どもの姿が見えなくなりました。そこで言うセリフは「ちよろこいごど」「ちよろこいずな～」です。また、いつまでも素早い動きで走り回っている子どもに対しても「ちよろこいごど」「ちよろこいずな～」と言います。

「ちよろちよろ」という言葉があります。これは、落ち着きなく動き回るさまを表す言葉ですが、どちらかと言いますと、子どもなどちいさいものが動くさまを言います。この「ちよろちよろ」からなまったのが「ちよろこい」です。

「簡単。安易。手ぬるい」という意味の「ちよろい」からなまったものではありません。

●ちんと・・・例題です。「ちんとでいいがら」。これは「少しで良いです」という意味です。

「ちんと」は「少し」という意味です。

よくある場面です。子どもたちが遊んでいます。やがてノドが渇きます。みんなでジュースを飲みます。ジュースをつぎ合います。子どもが「いっぱいちょうだい」と言います。おかあさんは子どもに「ち～んとね」（少しだけね）とか「ちんとでいいがら」（少しで良いからね）などと言います。

●つかす・・・例題です。「でほだれ、つかしてんな」。これは「いい加減なこと（でたらめなこと）、言うんじゃない（言うな・語るな・語るんじゃない）」という意味です。

「つかす」とは「言う」「語る」「話す」という意味ですが、どちらかと言いますと、悪いことを言う場合に使う言葉です。だから「ぬかす」という意味合いが強い言葉です。

悪い噂を流すことも「つかす」になります。

つまり、人と人とのつながりの中で、「つかす」ことは良くないのであります。

●つける・・・例題です。「自転車、車さつけんぞ」。もう少しわかりやすい表現にしましょう。

「自転車、車につけるぞ」。さて、この意味は何でしょう。わかりませんね。これは「自転車を車の中に積むぞ」という意味です。

「つける」とは、荷物などを車などに「積む」「積み込む」という意味です。

「自転車に荷物つけんぞ（積むぞ）」とか「台車に荷物つけたよ（積んだよ）」など、昔なら「リアカーに荷物つけだが（積み終わったか?）」という言い方をしました。

●つっちえきて・・・例題です。「Aさんどご、つっちえきて」。これは「Aさんを連れてきて（ください）」という意味です。

「つっちえきて」は「連れてきて（ください）」という意味です。

例題の場合、セリフを言った人はAさんに用事が、あるいは言いたいこと・伝えたいことがあります。それで、Bさんに「Aさんを連れてきて（ください）」と頼んでいる場面です。

●つっちえこい・・・例題です。「Aさんどご、つっちえこい」。これは「Aを連れてこい」という意味です。

「つっちえこい」は「連れてこい」という意味です。

例題の場合、セリフを言った人はBさんに強い口調で「Aを連れてこい！」と指示・命令している場面です。その理由として、Aさんが問題を起こした、Bさんが問題を起こしたことについてAさんから事情を聞きたい、とにかく何か問題・トラブルが起こった時に事情を知っているであろうAさんから話を聞きたい、今すぐAさんに用事があるので早く連れてきてほしい、等々です。

●つっちえって・・・例題です。おかあさんが買い物へ行きます。おかあさんは、子どものC君にお留守番を頼みます。そこでC君が泣きながら言うセリフは「おらんどごも、つっちえって！」。これは「私も（買い物に）連れてって」という意味です。

「つっちえって」は「連れてって」という意味です。子どもは「つっちえって」と言います。

「つっちえってけろ」は「連れてってくれ」という意味です。

「つっちえってけろず」は「連れてってくれよな」という意味です。

●つっぱえる・・・「つっぱえる」と言えば、だいたい「車がつっぱえる」ことを指します。それも雪道です。

雪の塊や轍にはまって動けなくなったり、気温の上昇で緩んだ雪にはまって動けなくなったり、除雪で道路の両側へ押つけられた雪にはまって動けなくなったり、道路両側の雪の壁に突っ込んで動けなくなったり、雪のよって道路の端がわからないため脱輪して動けなくなったりしますと、「車、つっぱえた」と言います。

同じ脱輪でも、雪道でない場合は「つっぱえた」とは言いません。（・・・と私はイメージしています）

もちろん、人に対しても「つっぱえた」とは言いません。

●つづらご・・・帯状疱疹（たいじょうほうしん）のことです。

「つづらご」は、身体に疲労が蓄積されると発症しやすいと言われます。

人は必ず（水痘・帯状疱疹）ウイルスを持っていますが、普段はそのウイルスに負けないだけの力を持っています。ところが、仕事のやりすぎ（過労）、精神的負担の増大（ストレス）などで疲労が蓄積されると、ウイルスに負けてしまい、「つづらご」を発症します。

症状が出ますと、赤い発疹と小水疱が現れます。強い痛みにも襲われ、通常生活（活動）は困難になります。症状は皮膚表面だけでなく、目の中や耳の中にも現れることがあります。目の中に

できますと、最悪失明の恐れもあります。

「8月に発症しやすい」「若い人でも発症する」という報告もあります。夏場は熱中症だけでなく、「つづらご」にも要注意です。

私は最近の例も含めて、少なくとも2人の知人が「つづらご」に罹りました。いずれも過労による疲労が原因です。「若い」から言って無理しますと、「つづらご」に罹る可能性が増します。

「つづらご」という言い方は、米沢をはじめ主に東北地方で使われています。

●つゆ・・・米沢でも、煮物の「つゆ」、日本蕎麦の「つゆ」と言います。牛丼チェーンでは「つゆだく」という言葉が聞かれますが、これも自然に入ってきた言葉です。(ただし、あくまで「つゆだく」は牛丼チェーンでの言葉です)

加えて、少なくとも私の周囲では、中華そば(ラーメン)のスープのことも「つゆ」と言いました。

●でーず・・・例題です。「おらいのおがしくったな、でーずだ」。これは「おれ(私)のお菓子を食べたのは、誰だ(誰ですか)」という意味です。

「でーず」とは「誰」という意味です。もうひとつ例題です。「うめえさげは、でーずだべ」。これは「(この中で)おいしいお酒はどれでしょうか」という意味です。

「でーず」には「どれ」という意味もあります。

●でがさね・・・例題です。「こどしのナスは、でがさねな!」。これは「今年の(野菜の)ナスは出来が悪いです」という意味です。「でがさね」は「出来が悪い」という意味です。

ところで、農産物は、気候によって、収穫が左右されます。天候不順になりますと、収穫数量が落ちます。また、品質も悪くなります。すなわち、「でがさね」には、数の視点からと、質の視点からの意味があります。

例題です。「この絵、でがさねな!」は「この絵、出来が悪いね」という意味です。このように、人が「創った・作った」モノに対しての「出来が悪い」という意味もあります。例えば、食べたから美味しくなかった料理に対しては、「でがさねな」と言います。

例題です。「この絵、でがさねな!」は「この絵、ここの雰囲気合わないね」という意味です。例えば、静かな雰囲気が求められる会場に、いくら作品自体は優れていても、派手な絵画は雰囲気を壊すこととなります。そんな時にも「でがさね」と言います。

●でした・・・山形独特の言い回しです。例題です。初めて会った人同士とか、久しぶりに会った時の挨拶です。「山口でした～。よろしくお願いします」。このセリフを聞いた山形以外の人には「ナヌ! お前は、今は山口ではないのか」となります。でも、これが自分を名乗る時の言い回しなのです。

●でだ・・・例題です。「ごはん、でだが」。これは「ご飯、できましたか(できたか)」という意味です。「ごはん、でだ(よ)」は「ご飯、できた(よ)」という意味です。

「でだ」は「できた」という意味です。例題です。会社です。上司が部下に「企画書、でだ

が」(企画書、できたか)と聞きます。部下は「できました」と答えます。この場合、上司に対して「でだ」とは言いません。いくら方言でも「でだ」では、上司に失礼です。

「でだ」には、もちろん(方言ではありませんが)、「出た」「発った」「出発した」という意味もありますので、場合によっては混同するかもしれません。注意が必要です。

おかあさんと子どもの会話です。「おしっこ、でだが」「でだ」

こんな例もあります。「あいつ、でだがな」「あいつ、でだべが」「あいつ、でだがえ」。いずれも「あいつ(家を)出たかな」あるいは「あいつ(家を)出発しただろうか」という意味です。よく聞くのは「新幹線、山形(駅)をでだべが」です。これは電車が駅を「出た」「発った」「出発した」という意味での言い方です。

●てっぱずれ(る)・・・例題です。食事中です。ご飯を食べるためにご飯茶碗を手に持ちました・・・と思ったら、ご飯茶碗が手から滑って下へ・・・ガチャン！　そこで言うセリフは「てっぱずっちゃ！」です。「てっぱずれ(る)」とは、手で物を持つとうとしたのに、持ち方が悪かったりして、物が手から滑ったり、物が手からはみ出したりして、落としてしまうことです。物が「手から外れる」という言い方が訛ったものと思いますが、「物が手から外れた」のではなく、持ち方が悪いため、落ちてしまうのです。

私も不器用なので、よく「てっぱずれる」ことがあります。

例えば、携帯電話で電話をかけようとします。かけたい相手の電話番号に従って、数字ボタンを押します。ところが、「2」のところ隣の「3」を押してしまいます。こんな時も「てっぱずっちゃ！」と言います。つまり、「てっぱずれ(る)」は、広い意味では、手作業でミスしたことを意味します。

この“ひとりごとダイアリー”は、パソコンのキーボードを叩きながら書いていますが、時々てっぱずれながら書いております。

「てっぱずれ(る)」は米沢だけでなく、広い地域で使われている方言です。

●でっぴ・・・これは私のことです(?)。すなわち「額が出ている」という状態を言います。だいたいにして相手をバカにする時に言います。ガキ同士でケンカになりますと、「でっぴ野郎」とか「おまえ、でっぴだな」となります。額が出ていることについて、私は会社でも「デゴアンチャ」とバカにされたものです。「アンチャ」とは、これも方言で「お兄ちゃん」のことです。

●でね・・・「出ない」「出ません」という意味ですが、そこからの応用で「できない」「できません」という意味もあります。

例えば、「おしっこ、でね」は「おしっこ(小便)、出ない(出ません)」という意味です。

例えば、学校での試験問題に対して「答え、でね」とは「答えが出ない」つまり「(答えがわからないので)答えることができない」という意味になります。

例えば、子どもたちが放課後活動しているとして、先生から「きょうは、おやつ、でね」と言われますと、「きょうは、おやつ、出ません」つまり「きょうは、おやつ、ありません」という意味になります。

会社では「赤字、でねようにしろず」という指示が飛びます。これは「赤字が出ないようにし

なさい」という意味です。

ある会社が、あるIT会社にホームページ制作を依頼しました。期限（納期）が来ましたので、IT会社に聞いてみますと、「まだ、でね」。これは「まだ、できません（出来上がっていません）（完成していません）」という意味です。もちろん「でね」で済む話ではありませんね。これはあくまで例題です。

●ではる・・・例題です。待ち合わせです。でも約束の時間になっても来ません。そこで相手に電話します。そのセリフは「ではったが?」。これは「出掛けたか?」あるいは「(家を) 出たのか?」という意味です。

「ではる」は「出掛ける」「出る」「外出する」という意味です。「ではった」は「出掛けた」「出た」「外出した」という意味です。

「ではる」は普通に「出掛ける」「出る」「外出する」という意味ですが、私の印象は「出掛ける」「出る」「外出する」を強調している感じに聞こえます。

●でほだれ・・・例題です。「オレよ、かねたんからサインもらったんだよ」「でほだれいうな! この野郎!」。これは(先のセリフの訳は省略)「でたらめ言うな! この野郎!」「いい加減なこと言うな!・・・」「調子いいこと言うな!・・・」というような意味です。

もうひとつ例題です。「あいづよ、かねたんからサインもらったってゆってんなあじ~」「ほだなごどゆってんなが~。でほだれなやづだな」。これは「あいづよ、かねたんからサインもらったって言っているんだよ」「そんなことを言っているのか。でたらめなやつだな」「・・・いい加減なやつだな」「・・・ハッターなヤツだな」という意味です。

このように「でほだれ」とは「でたらめ」「いい加減」というような意味です。

ところで、例題は明らかに「でほだれ」な話であることがわかりますし、冗談でも済むことですが、上司から「でほだれな仕事ばっかししてんな!」(でたらめな仕事ばかりしているではない!)と叱られるようでは、冗談では済まなくなります。

「でほだれをかたる(言う)やづ」「でほだれなやづ」は、当然信用されなくなります。

●てぼっこ・・・「不器用」という意味です。針の穴に糸を通すことがなかなかできない時「おまえ、てぼっこだずな~」と言われます。でも、「てぼっこ」なら、まだ良い方です。「おまえ、ぼっこだずな~」と「て」を抜かれてしまいます。

●でろ・・・ガキ同士が集まって「でろわっさすんべ~」。あっちの方ではおぼごめらが集まって「でろかんまがしすっぞ~」。

全国の皆さんには、これでは、まったく通じないでしょう。

「でろ」とは「泥」のことです。「わっさ」は「遊び」のことです。「おぼご」は「子ども」のことです。これに「めら」が付いて「おぼごめら」となりますと「子どもたち」という意味になります。

そこで、例題の文章は次のようになります。

子ども同士が集まって「泥遊びしよう」。「あちらの方では子どもたちが集まって「泥かきまわ

ししようよ（泥をかきまわして遊ぼうよ）」。

●でんぐりがえる・・・「ひっくり返る」という意味ですが、具体的には前転のように、身体が前に倒れたら、身体を丸くして、1回転する感じです。ですから、子どもの遊びで「でんぐりがえり、すっぺ」というセリフは、「前転しよう」という意味になります。

●てんつ・・・米沢（置賜地方）を代表する方言のひとつです。

「てんつ」とは「嘘」という意味です。

●てんつこぐ・・・これは「嘘をつく」という意味です。標準語でも、嘘を言うことを「嘘をつく」と言いますが、それにあたるのが「てんつこぐ」です。

「てんつ、こぐな」は、嘘を言った者に対してのセリフ「嘘、つくな」という意味です。仮に本当のことであっても、信じられない場合には「てんつ、こぐな」と言います。あるいは「てんつだべ〜」（嘘でしょう？）と言います。

「てんつ、こぐなず」となりますと、さらに強い調子での「嘘、つくな」となります。

●てんまる・・・「ボール」「球」を意味する言葉です。

ただし、野球のボールでもありませんし、バレーボールやバスケットボールのようなボールでもありません。スポーツのためのボールではなく、例えば、小さな子どもたちが、手でついたり、転がしたり、投げっこしたりする時の、やわらかくて、そんなに小さくなく、大きくもない球を指して言います。

●とうぎみ・・・「とうもろこし」のことです。

「とうきび」という言い方は、全国的にもご存じの方が多いと思いますが、私などは「とうきび」も、よその言葉であります。子どもの頃は「とうぎみ」としか言いませんでした。

夏の暑い時、焼いたり・ゆでたりして食べた「とうぎみ」の美味しかったこと。今でも忘れられません。

そう言えば、当時の自宅の脇の畑にも、たくさんの「とうぎみ」が栽培されていました。次第に大きくなる「とうぎみ」からも夏を感じたものです。

●どうすんべ・・・「すんべ」は「するよ」「やるよ」という意味ですが、頭に「どう」が付くと「どうしよう?」「どうしましょう?」という意味になります。これは、「どうしよう?」と自分が悩む場合もあれば、「どうしよう?」「どうしましょう?」と相手に尋ねる意味合いの言葉になることもあります。

例題です。夏休みでキャンプをしています。突然大雨に見舞われます。そこで言うセリフが「どうすんべ?」（どうしよう?）です。あるいは、たくさんのが余ってしまった時にも「（この余ったもの）どうすんべ?」（どのように処分しよう?）と言います。

●とおし・・・例題です。「とおし、おらいのおぼごんどご、めんどうめでけっちえ、おしょうし

な」。これは「いつも、私の子どもの面倒を見てくださって、ありがとうございます」という意味です。

「とおし」とは「いつも」「常に」「日頃」「ず〜っと」という意味です。

もうひとつ例題です。「あの人、とおし、町内の掃除、したんじさ」は「あの人、(昔から)ず〜っと、町内の掃除、していたのだよ(していたんだって)」という意味です。

「とおし」については、私自身そんなに聞いたり使ったりした言葉ではありませんが、記憶にはありますので、ご紹介しました。

●とおりん(と〜りん)・・・例題です。幼いお子さんがズボンをはいています。しかし、なかなかはくことができません。それを見ていたおばあちゃん、お孫さんに向かって「とおりん、されっが」。これは「ひとりで(ズボンをはくことが)できるか」という意味です。

このように、「とおりん」とは「ひとり」という意味ですが、あくまで、大人が子ども、それも幼い子どもに対して使う言葉です。ですから、子どもが「今ひとりだよ」という意味で「今とおりんだよ」などとは言いません。例題の「とおりん、されっが」に対して、マネて「とおりん、されるもん！」と受け答えることはあるでしょうけど。

●とがい・・・例題です。「おれのうっちゃこねが」「どうすんべ。おまえのうち、とがいで」。これは「私の家に来ませんか」「どうしよう。お前の家は、遠いでしょう(遠いから)」という意味です。

「とがい」は「遠い」という意味です。

「とがい」の「が」は半濁音ではなく、濁音の「が」です。

「とがいで」とか「とがいな」(遠いな)という言い方はしますが、「遠かった」に対して「とががった」「とがいがった」という言い方はしません。「とおがたず」という言い方です。

米沢から見ますと、東京はとがいです。ダジャレを放っているわけではありません。

●どくみ(毒味)・・・「味見」のことです。すなわち、料理の味加減をみることです。出来た料理を、ほかの人より先に食べる人は「毒味すんぞ」(味見するよ)と言います。

「毒味」は、辞書にも載っており、全国共通の言葉と思っていましたが、私が横浜で「毒味しますよ」と言ったら、「山形の人、なんでも『毒味』と言いますね」と言われました。それで「米沢でしゃべらっちえきた言葉」としてご紹介することにしました。

●とげえ・・・例題です。お客さんが来ました。そのお客さん、歩いてきました。そのお客さんのセリフです。「やえぐり、とげがった」。これは「かなり遠かった」という意味です。

「とげえ」は「遠い」という意味です。

●どさ・・・例題です。「どさいぐなよ」。これは「どこへ行くのですか?」という意味です。

「どさ」とは「どこへ」という意味です。

「どさ」を「どこ」と説明しているものもありますが、正確には「どこへ」です。もうひとつ例題をご紹介すると、それがわかると思います。

「どさいんかな～」とは「どこへ行こうかな～」という意味になります。

●としより・・・「年寄り」がなまった言い方で、年を取った人、つまり「高齢の人」のことを指す言葉です。ただし、何歳から「としより」からわかりません。

●とっかえひっかえ・・・例えばです。あることを試すために、あるもの（方法）を使います。それがちょっとでもダメだと、それを捨てて（あきらめて）別なもの（方法）を使います。このように、次々に使っては（試しては）、すぐに捨てて（あきらめて）、また別なもの（方法）を・・・というやり方を「とっかえひっかえ」と言います。

「とっかえひっかえ」の「とっかえ」は、元々は「取り替える」「モノを交換する」という意味です。それが、「とっかえひっかえ」になりますと、「いろいろなものを使う」「いろいろな方法を試す」という意味合いが含まれてきます。

ただし、「とっかえひっかえ」は「いろいろなこと・モノ・方法にチャレンジする」というニュアンスもあれば、「すぐにあきらめて、別なこと・モノ・方法に手を出す」つまり「移り気」というニュアンスもあります。

●とっかえる・・・2つの意味があります。

例題です。ガキ大将と子どもの会話です。

「オレのぱんぱえとお前のぱんぱえ、とっかえっこすんぞ！」

「そがな、やんだ！」

「ナニ！ やんだど！」

「わがっだ～。とっかえっこすっから・・・」

この意味は次のようになります。

「オレのめんことお前のめんこ、交換するぞ！」

（ガキ大将にしてみれば、自分より強いめんこを持っていることが許せませんので、強引に交換を迫っているのです。こういうのを本当のガキ大将というのかはいろいろな意見がありそうですが、少なくとも米沢には、こういうガキ大将がおりました）

「それは、イヤです」

「ナニ！ イヤだと言うのか！」（「オレの言うことを聞けないのか！」という意味が含まれています）

「わかったよ。交換するよ」

というわけで、ここでの「とっかえる」は「（持っているものを）交換する」という意味になります。

もうひとつの例題です。

「お風呂の水、とっかえでけろ」

これは「お風呂の水（「お湯」と言わないところも米沢らしい？かな）を交換しなさい」という意味です。ですから、これも「交換する」という意味ですが、この場合は「入れ替える」「取り替える」というニュアンスの「交換する」です。なぜなら、古い水（お湯）は、お風呂のお湯としては役目を終えましたので、洗濯水に流用するか、あとは捨てることになるからです。

●とっかえばす・とっかえばえす・・・例題です。「Aどごさいって、おもちゃ、とっかえばえしたぞ」。これは「A（君）の家に行って、おもちゃを取り返してきたぞ」という意味です。そのおもちゃは、みんなで遊ぶためのものです。ところが、A君は、そのおもちゃを家に持っていき、独り占めしている、という設定です。

「とっかえばす・とっかえばえす」は「取り返す」「取り戻す」という意味です。借りたものをいつまでも返さない、こちらの承諾も得ずに持っていき自分の所有物のように使っている、といった時に、「とっかえばす・とっかえばえす」ことになります。

例題は子どものおもちゃという設定です。このようなたわいない場合もあれば、深刻なケースも考えられます。

●どっけ・どっけえ（い）・・・子どもたちがかけっこをします。一番最初にゴールしたら「1等賞！」。一番最後にゴールしたら半分冗談で「どっけえ賞！」。

「どっけ・どっけえ（い）」とは、かけっこなどでの「ビリ・最下位」のことを言います。

「どっけ・どっけえ（い）」は、かけっこなどに使われる言葉ですが、それ以外のことには使われなと思います。また、大人にも使うことはありますが、どちらかと言いますと、子ども・幼児語という感じです。

冗談半分・遊び半分に使う言葉で、しつこく「どっけ・どっけえ（い）」と言ってしまうと、嫌われます。

●とっちゃ・・・例題です。「ふた、とっちゃ」。これは「フタ、取れた」「フタ、外れた」という意味です。

「とっちゃ」は「取れた」という意味です。

もうひとつ例題です。「洗濯したら、とっちゃよ」。これは「洗濯したら、（汚れ）落ちたよ」という意味です。

「とっちゃ」には「（汚れが）落ちた」という意味もあります。

「とっちゃが？」は「取れたか」「汚れが」落ちたか」という意味です。

●どっちゃ・・・例題です。「どっちゃ、いぐ」。これは「どちらへ行こうか」「どちらへ行くのですか」という意味です。

「どっちゃ」は「どっちさ」がなまった言い方です。

「どっちゃ、いんかな」は「どちらへ行こうかな」という意味です。

●どんけね・・・米沢の人は、どちらかと言いますと、味が濃いものを好む傾向があります。特に、塩辛い（しょっぱい）ものを好みます。そんな米沢人に、しょっぱくないもの、ピリツとしないもの、例えば、味噌汁や漬け物を出しますと、「どんけね」というセリフを浴びるわけです。

ばっちゃんが嫁っこに「どんけね」ということで、家庭の味が引き継がれる、という見方ができますが、私などは、米沢人のわがままを示している言葉、と感ずることがあります。「どんけね」には「しょっぱくない」とか「ピリツとしない」という意味のほかに、「まずい」という意味合い

も含まれている、と考えられます。これは、料理を作った人にとっては、つらい言葉です。だから、私からしますと、「どんけね」は好きな言葉ではありません。

自分の好みと合わない味だからといって、それを「どんけね」、つまり「まずい」と言っはなりません。

●とんに・とんにえ・・・例題です。「ふた、とんに（とんにえ）」。これは「フタ、取れない」という意味です。つまり「フタがきつくて取れない（外れない）」という意味です。

「とんに・とんにえ」は「取れない」「取ることができない」という意味です。

もうひとつ例題です。「洗濯したけど、とんにず〜」。これは「洗濯したのだが、汚れが落ちないよ」という意味です。

「とんに・とんにえ」には「(汚れが)落ちない」という意味もあります。

「とんにが？」は「取れないか」「取ることができないか」、あるいは「(汚れが)落ちないか」という意味です。

●どんぶぐ・・・冬は寒いです。そこで、子どもの私は、服を着て、セーターを着て・・・それでもまだ寒い。そこで着たのが「どんぶぐ」です。

「どんぶく」は、厚手の綿が入っているはんてん・羽織りのことです。赤いほっぺたをしたおぼご（子ども）が「どんぶぐ」を着ますと、いかにも「可愛い雪国の子ども」という感じです。大人が「どんぶぐ」を着ても、素朴というか、温かみを感じます。「どんぶぐ」は室内でも着ることができますので、ますます暖かになります。「どんぶぐ」はアッタカ〜イのであります。

「どんぶぐ」は、米沢だけの言葉ではないようですが、米沢の冬を思い出すアイテムということで、取り上げ、ご紹介しました。